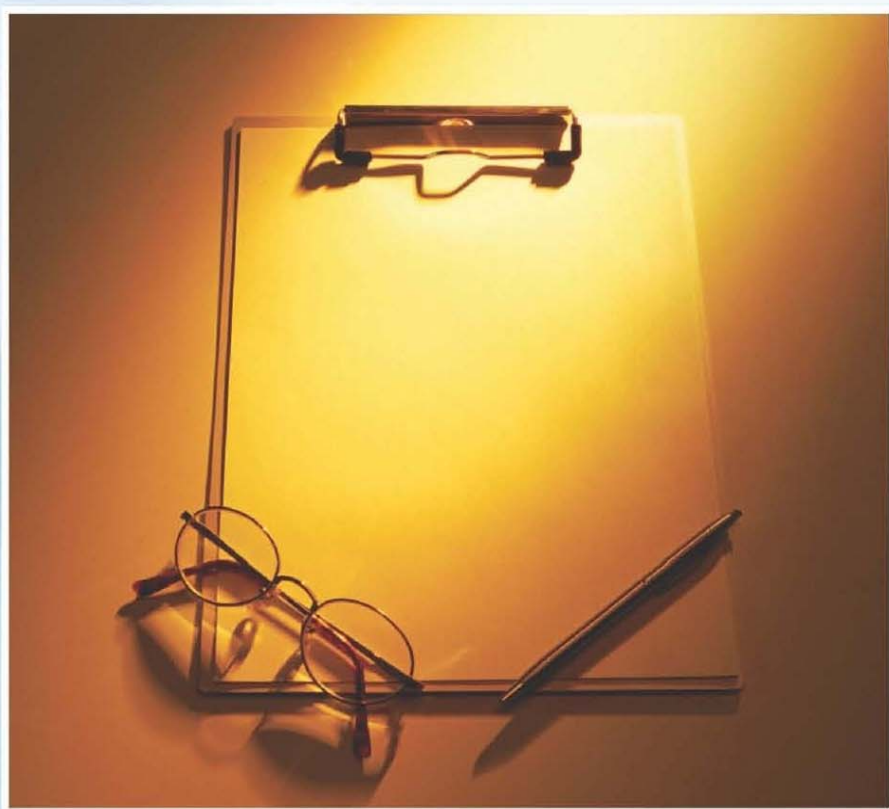


Passo a Passo



平成23年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程

Vol. 14

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球の視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法学を教授するため大学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



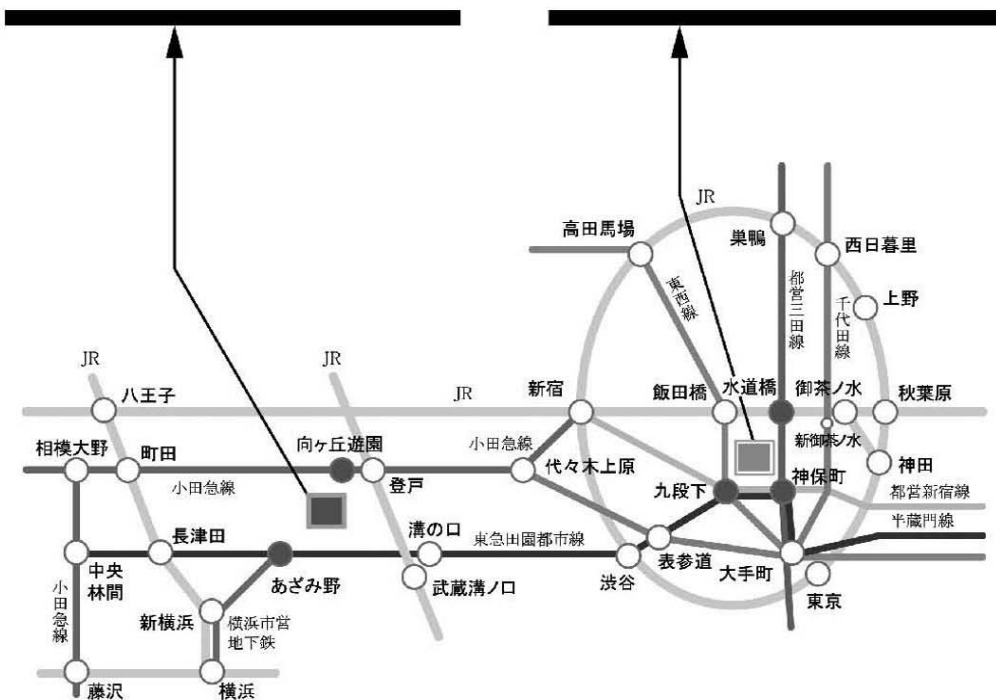
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



実習生の恩返し

教職課程協議会委員長 経営学部 教授 内田 欽三

学芸員課程においては、3年次になると必修として館務実習を行う。これは大学における必修授業である博物館実習と同一年次に、博物館において実地に実習を体験するというものであり、学芸員課程の総仕上げのようなものと言えよう。同時に、この館務実習は、それまで小・中・高・大というように学校という《ぬるま湯》の中で学んで来た学生たちが、初めて外部のまったく未知の世界で学ぶ機会にもほかならない。失敗したり、恥をかくいたり、嫌な思いもするだろうが、同時に、自分にもここまでできるのだ、という自信をつけることのできる、極めていい機会なのだ。そのために、館務実習を経た学生は、博物館に対する認識を新たにだけでなく、人間的な成長が見られることも少なくない。

さて、平成23年度も、例年通り、夏休みを中心として館務実習が行われる予定であった。前年の秋に履修希望者のガイダンスが行われて、実習希望館を絞り込むための、教師と学生個人との面談が繰り返された。さらに秋が深まった頃、履修学生一人一人に、館務実習の申請をしていい博物館を一館ずつ割り当て、それぞれの申請がいつせいに開始された。この後は、幸運にも、いち早く承諾や内諾を得る学生もいれば、新年度4月1日から申請受付です、と待たされる学生もでてくるなど、毎年のように繰り返される状況が展開するはずであった。

ところが、その矢先に、東日本大震災が発生してしまった。3月11日、東日本を中心に多くの人命が奪われ、傷つき、そして家屋や施設などの崩壊や消失は想像を絶する規模に上り、今日でも日々の生活に困窮する人々は膨大な数に上っている。しかも、震災の直接的な被害に遭わなかった人々も、政治や経済などの混乱により、様々な負の影響を受けて難渋しているのだ。いわば、日本全体が苦しみ喘いでいると言っても過言ではない。もちろん、その余波は館務実習にも及ぶものと、

震災の起きた直後から観念し、どのように対応すべきか、頭を悩ましたものだった。ところが、蓋を開けてみると、少なくとも本学の学生に関する限り、震災によって館務実習が行えなくなった学生は一人もいなかった。

とはいえ、受入れ館に被害がなかったからだろう、などと思わないでいただきたい。この夏、学生を受け入れていただいた日立市郷土博物館を訪れた。昨年、訪れたおりに、講習会が行われていたスペースは外壁がシートで覆われ、入口エントランスの壁面には大きな亀裂が走り、館内の照明は落とされていた。館の学芸員も職員も、復旧のための作業に忙しそうに立ち働いていた。しかしながら、危険性がないことが確認されたので、館務実習の受け入れは早々と決定したのだ、という力強いお話を伺うことができた。また、会津若松にある福島県立博物館も、実習生の受け入れをいち早く決定してくれた館であったことも、付け加えておかねばなるまい。

震災直後から、被害に遭った人々が整然とルールを守って行動し、互いに協力し合って助け合う姿に、諸外国から讃嘆が寄せられたことは記憶に新しい。だが、先の例を見るならば、表面には見えないところでも、人々はかくも助け合っているのだ。その根底にあるのは、若者たちを教育し、育てたいという使命感であろう。そして、この思いは博物館の館務実習だけではなく、教職の教育実習や司書課程の図書館実習などの現場の人々も、まったく同じであろう。この先、実習に行く諸君、どうか、この気持ちに思いを馳せていただきたい。そして、与えられた実習の機会を無駄にしないよう、懸命に取り組んでほしい。それが、受け入れてくれた館の人々に対する君たちの最大の恩返しである。



Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

英語科教員を目指す学生に課している課題

文学部 教授 片桐 一彦	6
--------------------	---

教職課程

卒業生から	10
教員採用試験体験記	14
教育実習を終えて	20
介護等の体験を終えて	27
インターネット全盛時代の地理教育に関する一考察 ー 教材研究の深化のために ー 経済学部 兼任講師 増田 純一	28
教科研修生体験レポート	31
学校教育ボランティア体験レポート	32
専修大学附属高等学校から 生徒と共に歩む 専修大学附属高等学校 教諭 井上 亜衣子	33

司書・司書教諭課程

学生時代の意義ある出会いのひとつになれるように 文学部 兼任講師 太田 順子	36
図書館実習を終えて	38
在学生から	39

学芸員課程

博物館実習の取り組み ー 専修大学所蔵柄鏡の紹介 ー 文学部 講師 高島裕之他	42
博物館実習を終えて	44

データ編（平成23年度）

資格課程履修者数	48
教員免許状取得状況一覧	49
教育実習先一覧	50
図書館実習・博物館実習先一覧	53
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	54
資格課程年間行事表	58
教職公開講座開催結果	59
司書課程就職（進路）懇談会開催結果	60
資格課程教員紹介	61
編集後記	

■4つの資格課程

教職課程 … 中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制講習」(免許状更新講習)

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を夏休休暇中に実施しています。

司書教諭課程 … 学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程 … 公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料(図書、雑誌、DVD等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時（事前に申請した者）
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業後（希望者）
司書課程単位
修得証明書の
申請および交付

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

卒業後（事前に申請した者）
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時（事前に申請した者）
学芸員資格取得証明書
3月

司書・司書教諭課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生を対象
として、学校図書館見学会を実
施しています。

司書課程就職（進路）懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
を開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、川崎市を中心に7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開設しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

英語科教員を目指す学生に課している課題

文学部 教授 片桐 一彦

<英語科担当>

私は、文学部英語英米文学科の学生を対象に、主に英語科教育研究と教育実習の授業を担当している。

平成23年度の公立学校教員採用候補者選考試験（英語科）では、文学部英語英米文学科4年生9名が第1次試験を突破した。残念ながらそのうち4名しか第2次試験を合格できなかったが、教員採用に関してこの厳しい競争時代に4名も現役で合格できたのは立派である。本学卒業後、常勤講師や非常勤講師をしながら再度挑戦し、見事第2次試験を合格できた卒業生もいる。またその他、私立高校等における教諭を目指して頑張っている者もいる。

教授第1次試験の時点で不合格であった者も、第2次試験で不合格であった者も、私立高校等での専任教諭としての就職がうまくいかなかった者も、一度の挫折でくじけることなく、次年度に向けて捲土重来を期して欲しい。

<英語科以外の他教科にもあてはまる>

冒頭から英語科の話ばかりで恐縮であるが、英語科以外の他教科の教員を目指している学生にもあてはまると思うので、本稿では英語科の話を紹介したい。本学英語科教員養成の話だけに特化することによって、逆に英語科以外の他教科の教員を目指している学生にとっても新しい情報や別な見方が得られる可能性が高いと思う。

<授業で課している課題>

英語科教育研究1&2のそれぞれの授業では、次の4種類の課題（レポート）を課している（つまり、前期と後期合わせると、「4種類の課題」×「2回」）。

(A) 学外の英語教育関係の学会・大会・研究会・勉強会等に参加して、その報告と感想を書く。

(B) 望月昭彦 他 (2010)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館）、もしくは土屋・広野 (2000)『新英語科教育法入門』（研究社）の1つの章を読んで、その要約と感想を書く。

(C) 月刊誌『英語教育』の記事を1本もしくは2～3本読んで、その要約と感想を書く。

(D) 「英語授業のDVDやビデオ」を視聴し、その要約と感想を書く。

「レポート1回につき、A4 1枚程度とする。2枚でも構わない。内容は(A)、(B)、(C)、(D)を1回ずつ。前期のDのみ、5月中に提出すること。その他の順序は自由で構わない。」といったことをシラバスに記載している。

4種類の課題を課す意図を説明したい。



<それぞれの課題のねらい>

(A) のねらいは、学外の英語教育関係の学会・大会・研究会・勉強会等に参加して、現場の先生方と直に触れ合い現場の生の声を聞くことであったり、大学の授業だけではすべては網羅できないためそれを補う勉強であったり、学生の中から学会・研究会に親しむことであったりする。

教員になるまでの道程も一苦労だが、言うまでもなく教員になってからもその激務で大変である。そして教員になってからも勉強を続けなければならない。自分の授業を日々振り返り、改善に努めなければならない。教員になって若いうちから学会や研究会等に参加しないと、歳を取るにつれますます学会や研究会への敷居が高くなる。若いうちから参加して教員自身も絶えず学び続ける習慣をつけるためにも、学生時代に学会・研究会に参加してみる経験が大切だと思う。百聞は一見に如かず。

本年度は、関東甲信越英語教育学会 第35回神奈川研究大会を本学生田キャンパスで開催した（平成23年8月6日〔土〕）。本学の学生も何十名と参加したが、よき経験と勉強になったと思う。

(B) のねらいは、英語科教員になるために勉強しなければならないいろいろな分野を薄く広く一通り扱っている教科書を自分で勉強する機会を提供することである。課題（レポート）だけに関しても言えば、教科書の1章分を読んでレポートにする（前期と後期で2章分）だけになるが、どちらかの

教科書を1年のうちに必ず読破することはもとより反芻することが本来の目的である。そのきっかけ作りのための課題であると授業中に受講生には伝えている。週1回の授業だけではすべてを網羅できないので、それを補ってもらうためである。

(C)のねらいは、月刊誌『英語教育』の定期購読の習慣をつけてもらうことである。レポートは、そのきっかけ作りである。『英語教育』は、現職の英語教員向けの専門雑誌だが、明日の授業で使える実践的な内容を中心に、英語や学校教育問題や教育行政等に関する最新情報から教養的な内容まで多岐にわたって扱っている。毎月(号数)ごとにテーマが変わり、英語の発話を増やす工夫だったり、音読時の生徒の声を大きくさせるための工夫だったり、小テストの作り方だったり、宿題の出し方だったり、英語が苦手な子への配慮の仕方だったり等、授業実践に重きを置いている。それでいて、英語圏におけるベストセラー書籍の紹介(例: Chua, A. (2011). *Battle Hymn of the Tiger Mother*. New York: The Penguin Press)や、時事英語に関する情報(例: Tiger Mother。「タイガー・ウッズのお母さん」という意味ではない。「母親トラ」という意味でもない。前述の本から由来していて、「スパルタ教育をする母親」という意味。)を載せている。また、学習指導要領改訂についての詳述と学校現場への具体的変化を扱っ

たり、小学校英語教育導入後の中学校英語教育はどう変わるべきかの特集を組んだり、教員免許更新制について扱ったり、とにかく感心するほど網羅している。これを大学2年次から毎月読んでいた学生とそうでない学生では、雲泥の差が出ることは容易に推測できると思う。定価800円と安価だが、お金がない人は本学図書館で最新号からバックナンバーまで読むことができる。

(D)のねらいは、たくさんの英語教師の授業を見て学んでもらうことである。人は無意識のうちに、自分が中学時代・高校時代に学んだ英語の授業(教授法や授業運営方法)に大きく影響を受ける。授業内におけるその教授法や授業運営方法がどのような意味をもつか、どのような教育効果をもたらすのかなどを自分の頭で考えることなく、無批判にそして無意識のうちに自分が中学時代・高校時代に学んだ英語の授業を拡大再生産させてしまう。ところが、多くの英語教師による多種多様な英語の授業を見ることによって、実は自分が受けてきた英語の授業はほんの一例に過ぎないことに気づく。また、もっと効率的な授業方法が実にたくさんあることに気づく。とにかくたくさんの英語教師のいろいろな英語の授業を見ることが重要である。そのために、そのきっかけ作りとしてこの課題を課している。

なお、「英語授業のDVDやビデオ」は、(株)ジャパンライムから販売されているDVDやビデオが何十本と学内で整備されており、学内で学生が自由に視聴できるようになっている。

＜やるべきことはたくさんある＞

本学には、エクステンションセンター事務課が主催し東京アカデミーから講師をお呼びして約1年間に渡って学ぶ「教員採用試験対策講座」が用意されている。「教科研修生制度」もある。小学校・中学校・高校において生徒と直接接する機会が得られる「学校教育ボランティア活動」の紹介もおこなっている。やるべきことはまだ他にもたくさんある。英語教師を目指すなら、海外留学体験も望まれるし、そしてなんといっても聞く・話す・読む・書くといった4技能のバランスのとれた確かな英語力が求められる。

Tiger Professor(私の造語)としては、他教科も含め教員志望の本学学生諸君の益々の情熱と努力に期待し、その目標が達成されることを願っている。



米国アトランタCNN本部にて



教職課程



卒業生から（英語）

教師として大切にしていること

砺波市立庄西中学校 教諭 藤田 由貴（平成20年度文学部英語英米文学科卒業）

私は現在、地元富山県で英語の教員として働いています。自分を育ててくれた地元富山に恩返しがしたいと思ったのがこの職業に就いたきっかけです。富山のためになること＝富山の未来を担う子供たちを育てることではないか？という父のアドバイスがあったからです。教師となって3年たち、現場での流れも分かるようになってきました。忙しいときもありますが、何といても生徒の成長を見られた時の喜びは何事にも変えられないほどうれしいものです。今回は私が教師として生徒と関わる中で、大切にしていきたいと考えていることを紹介したいと思います。

1つは、生徒と笑顔で接することです。教師は常に生徒と向かい合って毎日を過ごしています。私たち教師は生徒の表情や声の調子などから、生徒が感じていることや、悩んでいることが何かを感じながら、どのような声かけが必要なのかを考えて接しています。しかしその一方で、生徒たちも私たち教師の表情をよく見て、判断していることが多いのです。私は幸いにも採用1年目から担任をさせていただいたので、外部の方に自分の授業を見てもらう機会が多くありました。ある道徳の研究授業では、2カ月以上かけて発問を精選し、計画を立てて授業の発表をしました。本番では生徒に発言をしてもらおうと計画していた発問をするのですが、生徒から予想していたような発言が出ず、計画通りに進められないまま授業を終えることになってしまいました。生徒の発問を予想して計画を立ててきたのになぜうまくいかなかったのだろう？生徒とも普段からコミュニケーションをとり、生徒の反応も予想してきたつもりだったのに…うまくいかなかったことで大変落ち込みました。授業後に校長先生からアドバイスをいただいたことが私の考え方を大きく変えました。「道徳の物語を読んでいるとき、難しそうな顔していたねえ、だから生徒も難しい顔になっていたよ。」このとき私ははっとしました。自分は計画通り進めないといけないという焦りから、顔がこわばっていたのです。そのときの生徒たちの顔は…？皆さんも中学生時代を思い出してください。担任の先生の機嫌が悪かったら何かいやなことがあったのかな、私たちは何か怒らせるようなことをしたのかなと友達とこそこそわさ話をして



いたなんてことはありませんか？そこから考えると生徒たちは、先生が緊張しているぞと感じたら、いつもは手を挙げて発表していても、静かになってしまうのです。この経験から、普段から生徒に接するときはなるべく笑顔で接することを心がけるようになりました。授業でも、朝の会や帰りの会でも普段は笑顔で生徒の前に立つようにしています。そのときに、生徒からも笑顔が返ってくると安心感や楽しさが伝わっているのかなと感じています。もちろん、真剣なとき、本当にしてはいけないことを注意するときは真剣な顔で生徒に話をします。普段の笑顔とのギャップから「私は真剣に話をしているんだ」「私は絶対にあなたの行為を許せないんだ」ということが生徒に伝わっていただいていると思います。

もう一つは、「感謝の気持ち」を素直に伝えることです。大人でも子供でも誰かから感謝されることはうれしいことです。当たり前のことでも、係として決まっている仕事でも、「ありがとう」といわれると気持ちがいいものです。これは確証がないことですが、この「ありがとう」の積み重ねが、困っている人を進んで手伝ったり、自分から役割を果たすことに積極的になったりする生徒の心を育てるのではないかと考えています。落ちたものを拾ってもらったとき、後ろの席からプリントを集めてきてくれたときなど、どんな些細なことでも「人に何かをしてあげる」ことには変わりありません。私が「ありがとう」を伝えることで、生徒が「ありがとう」を素直に言えるようになっていけばいいなと考えています。

中学時代というのは、精神的にも肉体的にも大きく変化し、成長する時期です。その中で不安定になったり、迷ったり、悩んだりする生徒たちと向き合い、そのマイナス要素を少しでもプラスの方向に向けてあげられるよう手助けするのが教師の仕事だと思っています。マイナスがプラスに変化し、成長していく生徒たちを身近で見られる教師はとても幸せな職業です。私自身、これからの教員生活でどのような生徒の成長が見られるのか、そして生徒たちからどんなことを学ばせてもらえるのかをわくわくしています。



卒業生から（社会）

悩んだときは苦しい道を選べ

東京都立蒲田高等学校 主任教諭 宮崎 三喜男（平成12年度法学部法律学科卒業）

「悩んだときは苦しい道を選べ」、担任をしていて生徒に常に語りかける言葉である。青年期まっただ中の高校生の悩みは多い。また安易に楽な方に逃げてしまう年頃でもある。しかしそんな思いは実は教師にも同じようなことが言えるのかもしれない。今でもたまに学生時代に描いていた「理想の教師像」に自分はなれているのか振り返るときがあります。

教壇に立って10年を迎えようとしていますが、今まで2つのことを大切にして教師をしてきました。1つは「授業で勝負」、もう1つは「生徒に様々な経験をさせること」の2つです。

現在の教師は非常に多忙です。クラス経営、校務分掌、部活動指導と授業以外の仕事が目の前に山のようにのしかかってきます。しかし、それでも基本となるのは「授業」だと思います。授業をおろそかにする人で「いい教師」は1人もいません。授業を通して、生徒に夢や希望、未来を語り、また生徒指導、進路指導をしていくことが今の学校現場には強く求められているのです。そしてまた、それは教師が教え込むのではなく、生徒に様々な経験をさせる機会を提供することが大切であると考えます。たとえば私は公民科の教員ですが、知識を教える授業はせずに、主体的な学びを取り入れ「答えのない政治・経済」という授業を実践しています。考えさせるという授業は簡単かもしれませんが、答えのない授業は、生徒も教師も真剣に深く考えなければなりません。話し合ったり、発表したり、時には体を使って体験する学習は、生徒にとって非常に印象に残り、また本当の意味での「学び」となる学習方法です。教科書に書かれていることをわかりやすく教えることも大事でしょう。しかし「なぜそのことを教えるのか」を教員側が持っていないと、それはメッセージ性のない授業になってしまいます。私はこのことに気づくまでに随分と時間がかかりました。皆さんには、ぜひ学生のうちから深く考えてもらいたいと思います。

さて、「生徒に様々な経験をさせる」ということは何も授業に限ったことではありません。本校では修学旅行を廃止して、青森のリ

ンゴ農家へのファームステイを実施しています。ジャージを着て、地道に農作業を行うことは、一見面白味がないかと思うでしょうが、都会に育った生徒たちは農家の方々の大変さが身に染みてわかり、かつ第一次産業の重要性を身をもって理解できます。またリンゴの木の下にタイムカプセルとして「5年後の自分への手紙」を植えてきます。このファームステイはもちろんのこと、点ではなく、線を結ぶ教育を行うことができる学校現場は非常に魅力的なものです。

現在、私は長期派遣研修制度を利用し、1年間学校現場を離れ、大学院に籍をおいています。約10年、現場で主体的な学びや体験的な教育活動を実践してきたことを、一度整理し、「キャリア教育」の観点から学び直そうと思ったからであります。それは教員採用試験に合格した際、専修大学の恩師から「広い世界に目を向けなさい」という言葉を頂いたのがきっかけです。学生の皆さん、広い世界は非常に魅力的です。そして非常に深く厳しい世界が待っています。しかしながら「悩んだときは苦しい道を選べ」です。ぜひ、一歩踏み出してみませんか。

現代社会の変化によって、今、子どもたちには自ら進んで学ぶ力をつけることが求められています。頭の教養があっても論戦に負けては元も子もない。手札が悪くてもそこそこ勝てるカードの切り方が必要とされるようになってきているのです。今は「みんなと同じ」が求められるのではなく「みんなと違ってあなたは何かできるの」と尋ねられる時代です。そんな時代を担う子どもたちを支援できる教師という仕事は本当に魅力的です。ぜひ共にこの充実感のある魅力的な世界で一緒に働きましょう。お待ちしております。



卒業生から（情報）

情報科教諭を目指す皆様へ

埼玉県立川越西高等学校 教諭 曾田 正彦（平成14年度経営学研究科経営学専攻修了）

はじめに

教員として9年が過ぎた。専修大学は、教員という職業に特別な思いの無かった私にその道筋を与え、さまざまな知見を授けてくれた。目をかけていただいた多くの先生方やこの教科の教職課程の設置に奔走していただいた事務の皆様改めて感謝申し上げる。また、このような機会を与えてくださった望月先生にもお礼を申し上げたい。

1. 教員としてのスタンス

さて、私は現任校で教科「情報」を教えている。授業数は週16時間、これ以外に学年の仕事、分掌の仕事、部活動の仕事、その他多くの雑務を抱えている。多くの教員が共通して口にする事柄だが、我々が授業にさける時間というのは極めて少ない。よって、いかに効率よく準備し、いかに生徒の前で効率よく振舞い、いかに説得的に指導するかを考えると日々である。また、私は商業も免許として持っているが、指導したことはない。おそらく指導できないだろう。なぜなら受けた訓練も極めて少なければ、専門家としての強いこだわりが無い。教員たるものその教科に対して強い魅力を感じ、自発的・継続的に研鑽に励む、そしてその魅力を伝えていくのが仕事である。よって、日々の研鑽が苦だと感じるならば、教壇に立つことはできないだろう。そもそも授業など受けたくない生徒がほとんどなのだから。

2. 私の考えるこの教科の魅力

私はこの教科を指導していくにあたり、以下の3点を常に念頭に置くとともに、この3点にやり甲斐や喜びを感じている。それは実践的な教科、発信力を高める教科、横断的な教科ということである。

教科「情報」は実学であるという特徴を持つ。基礎・基本を築いた後は、時勢やその環境に応じて何をどうするかを自分なりに構成し、実践していく術を自発的に学んでいくことになる。これは生徒だけでなく教員にも言えることである（これが面倒でパソコン教室をやりたいと思っている人は諦めたほうが良い）。私は授業でも説明しすぎないことを意識している。情報の世界は、問題解決型でその答えを導き出すために自分から動く必要があるからだ。また、本校では、来年度第2コンピュータ室を改築する。部屋の担当

である私がそれを設計することになるのだが、従来型の座学、パソコン教室用の部屋ではなく、可動式の机、無線のノートパソコン、ホワイトボードや電子黒板を導入し、会議やディベートも視野に入れた部屋にしようとしている。情報を収集し、さまざまな条件から本校の現状に合わせてカスタマイズし、決断をする、その過程が楽しい。

次に発信力を高める教科であるということ。私はプレゼンなどを題材に話すトレーニングを行うことを心かけている。話すという行動は脳の根本的なトレーニングである。さまざまな言葉を頭の引き出しに取り込み、論理的に組み立て、自分の言葉として発信していく。また、聞く側を観察し、常に改善を試みる。このプロセスで頭が整理され、考えることを日常的に行うようになる。日常的に学ぶ行動を身につけることはとても重要であると考え。

最後に横断的な科目であること。情報科の教員は調べ学習やメディア作成などで他教科の先生とコラボしたり、総学を先導していくことになる。他教科の方々と情報を共有し、協議し、授業を作り上げていくことは自分の教育力を高め、校内での人間関係構築にもつながる。今年の1年生の総学では、「社会を知る」という題材で数人のグループを作り、仕事について調べ発表させた。発表は模造紙で行わせ、班内のコミュニケーションを取らせるように心がけた。人間は有機体である。何かインプットを入れれば、何かアウトプットが返って来る。正論が必ずしも正しいアウトプットを導くわけではない。これが教育の面白さであり、それを実践させてくれるのが学校である。

おわりに

この教科の教員を目指す皆さんは、学校で貢献できるスキルや考え方をたくさん持っているはず。従来の教師像にとらわれず、柔軟なアイデアやそれを実践していくノウハウをもってぜひ現場に来てください。いろんな場面で引っ張りだこになりますよ。ぜひ、いっしょにやりましょう。



中学生公開講座より



3年総学「真剣10代しゃべり場」より

卒業生から（特別支援）

偶然から導かれて…特別支援教育は楽しい！

船橋市立船橋中学校 教諭 菊池 亜希子（平成8年度法学部法律学科卒業）

大学卒業後、初めての学校現場が中学校の特学の介助員の仕事であった。障害を持っている子どもたちと接するうちに特殊教育（現：特別支援教育）に興味を持ち、通信教育で免許を取得し養護学校（現：特別支援学校）の教師となった。初任で船橋市立船橋養護学校に赴任し、3年間高等部と小学部で教育に携わった。その後、船橋市内の薬円台小学校で6年間勤務し、今年4月から船橋中学校に勤務している。教職経験10年目で3校目となる。10年で小学部・小学校・中学校・高等部と4つの校種・学部を経験しているというのは、船橋市内でも数少なく珍しい存在だと思う。



本来ならば基礎を固めるこの時期、1つの校種でじっくり経験を積むほうが賢明なのかもしれない。

しかし、私自身は場当たりの異動の仕方も決してマイナスではなく、むしろプラスになっている。

採用された当初は養護学校間を異動しようと考えていた。市立船橋養護学校では、子どもたちが主体的に学校生活を送ることで生きる力や社会的自立につながると考えていた。小学部では体育館や校庭に大規模な遊び場を作り遊びこんだり、できることを活かして物作りや調理をしたりした。教師と子どもは一体になり経験や気持ちを共有した。学校生活の充実が子どもの成長や安定につながると考え、子どもの学校生活の中心に「生活単元学習」を置く船橋市の特別支援教育のあり方にとっても共感した。そして市内の特別支援学級も生活単元学習と作業学習を中心に実践を積んでいることを知り、船橋市内で特別支援学級の担任として異動することにした。

小学校の特別支援学級では着任2年目から主任となった。分からないことばかりであ

ったが、校内の通常学級の先生や他校の特学の先生方に助けてもらい、試行錯誤しながら自分のやり方や子どもたちへの思い、方針などを確立することができた。小学1年生だった子が6年生になったとき、小学校を卒業した子達のこの先を自分の目で確認したいという思いから中学校の特別支援学級への異動を希望し、現在に至っている。

小・中・高、それぞれの発達段階において具体的に子どもたちにつけたい力や目指す姿、目標などは異なる。小学校の中でも低学年と高学年で指導の観点が異なるのであるから、校種が変わればなおさらである。なので「自分の専門は中学校だから…」などと1つの校種に固執しすぎず、機会があったらぜひ様々な校種での仕事も経験してほしい。教師自身が子どもの育っていく学校を縦断的に経験することが、子どもの成長過程の理解や自分の見識の広がりにつながると思う。

私は教員になってからずっと特別支援教育に携わってきている。自分が大学在学中には全く考えもしなかった道であるが、私にとってベストの選択であった。子どもの成長をつぶさに見つめ、一人ひとりの成長段階にあった学習課題や目標を設定し、工夫をしていくことは、大変であり行き詰まることもあるが、とてもおもしろく、やりがいを感じている。特別支援教育はすべての教育の原点である。この道に私を導き夢中にさせてくれた同僚、子どもたち、保護者、時間、経験、出会い…すべての偶然が必然であったと思う。学校種が違ってても教育の根本は変わらない。

若いみなさんには自分でこれしかないと思いつけ選択肢を狭めることなく、色々な経験をしてより自分を磨き、人間性豊かな教師になってもらいたいです。がんばってください！



教員採用試験体験記

文学部日本語日本文学科日本語学専攻4年 鈴木 隆将

この度、私は平成24年度静岡県教員採用試験に合格することができ、4月から教壇に立つチャンスを得ることができました。私は、大学進学時から教師になることを漠然とですが夢として描いていました。その夢が今叶い、とてもうれしく思っています。

ここでは後輩の皆さんに、私の採用試験合格までの体験談を、少しばかりですが紹介したいと思います。後輩の皆さんの参考に少しでもなれば幸いです。

私が教員採用試験に向けて本格的に勉強をし始めたのは、3年生の11月頃だったと思います。3年生の始めから大学が開講していた東京アカデミーの教員採用試験対策学内講座を受講していましたが、実際に自分の受験する自治体を調べて勉強し始めたのはこの頃だったと記憶しています。

1次試験の対策としては、自治体の過去問を手に入れ、分からなくてもいいからとにかく問題を解くことから始めました。問題を解き続けることで自分の受験する自治体の問題の傾向を知り、的を絞って勉強を進めていくことができました。少しでも早く自分の受験する自治体の過去問を手に入れて勉強していくことが、一次試験突破のカギになるのではないかと私は思います。

たとえば、私の受験した自治体は、専門科目の中に記述問題が多くあり、時間内にすべての問題を解答するのが難しかったのですが、過去問を解いていく中で、早いうちに気づくことができたので、対策をとることができました。具体的には、高校で使っていたようなワークブックを購入して、記述問題に時間を決めて取り組むという方法です。このおかげで本番の試験では、時間内にすべての問題を解くことができました。

また、一般教養の範囲の問題では時事問題が多く取り入れられていました。そのため、新聞やテレビで多く取り上げられているニュースをノートにメモをとったりしてまとめることもしました。実際に自分がメモをしていたニュースが問題に出た時は「やった!!」と思いながら解答したのを今でも覚えています。

教職教養では法規や学習指導要領の穴埋めが多く出題されていたので、重要な箇所は暗記して、選択語句がなくても語句を埋められるようにしました。本番では一番始めに解答

して、落ち着いて他の問題に取り組むことができました。

このような取り組みが実を結び、1次試験を突破した私は、2次試験に向けて面接対策を行っていききました。2次試験では個人面接、模擬授業、集団討論が行われました。1次試験を終えてからすぐに対策を始めたのですが、それでも1カ月程度しか時間をとることができず、正直1次試験に比べて万全ではなかったと思います。その中で私が心がけたことは2つ、「自分の中で教師としてのぶれない軸を1つ持つこと」と、「実際の教育現場で働いている受験者と張り合うことをしない」ということです。

「自分の中で教師としてのぶれない軸を1つ持つこと」は、面接にあたって、1番始めに考えなければならないことでした。私は「生徒とともに成長していくことのできる教師」ということを自分の中で1つの軸として面接に臨みました。このことで面接官の質問に対して考えがぶれることなく答えることができたと思います。

「実際の教育現場で働いている受験者と張り合うことをしない」というのは、集団討論での自身の意識の持ち方です。実際に教育現場で働いている受験者の方の話は、実体験に基づいていてとても説得力があります。けれど私にはそれと同じように話をすることはできません。そのため私は、分からないことに関しては謙虚な姿勢でこれから勉強をしていきたいということを示していこうと考えました。そのため、変に気を張ることなく集団討論でも話をすることができたのではないかと思います。

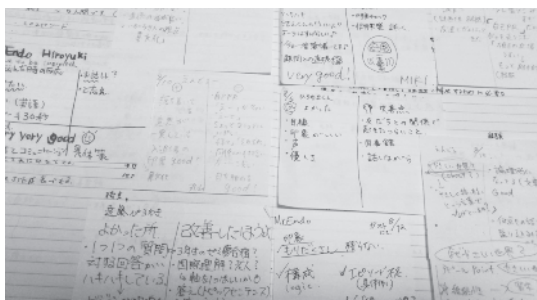
すべての試験を終え、10月3日に採用試験合格の通知が届きました。この時の喜びは今でも忘れません。そして私には合格と一緒に喜んでくれる人たちがたくさんいました。その人たちはこれまで私を支えてくれた人たちです。彼らの存在のありがたさに気づくことができたのも、採用試験を終えて私が得ることのできた大切な「体験」です。これから教師を志す後輩の皆さんにも、合格はもちろん私のようにかけがえのない人たちの存在に気づく体験をして欲しいと願っています。

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年 遠藤 浩之

10月7日、私は仲間とともに教員採用試験合格の喜びを分かち合いました。一人では無理でも、仲間がいれば必ず夢は叶うということを、身をもって体験することができました。そんな私の採用試験体験を、仲間への感謝の気持ちを込めながら記させていただきます。

私が受験したのは、地元茨城県の採用試験でした。一次試験では教職教養、一般教養、専門科目、英語による口述試験が課され、二次試験では小論文、集団討論、個人面接が行なわれました。数学や物理などの自然科学や時事問題、茨城県の歴史問題などが出題され、広範囲な分野を勉強するには多大な時間と労力が必要でした。このように、教員採用試験では広範囲の知識を身に付けつつ、二次試験に向けて面接などの対策もしていかなければなりません。私がどのように仲間とともに、これらの対策を行ったのかを紹介したいと思います。すべては大学3年の5月から始まりました。



面接練習時の、仲間からのフィードバック

教職を目指す優秀な先輩方の中でも、試験に合格できるのはほんの一握りという現実を知り、このまま教職を目指すことに不安を覚えたのは私だけではありませんでした。そこで同じ不安や悩みを抱える仲間が自然と集まっていったのです。当初は4人の仲間で、私たちの勉強会はスタートしました。まず、英語教育の知識を身につけるため、それに関する本を一冊各章ごとに担当を決めて、レジュメを作り発表するという活動を週に1度、大学の空き教室で行いました。次に、大学3年の秋からは、実践力を身につけるため、模擬授業にも取り組み始めました。お互いに良い点、改善点をフィードバックし、その上で、教育実習Ⅰの授業では先輩方から、建設的なコメントをいただくことで授業の実践力を磨いていきました。採用試験に合格するためだけでなく、このように教師になるために必要な知識や技能を、早くから身につける努力をしてきたことが、結局は採用試験合格に結び付いたのだと思います。

採用試験の勉強に真剣に取り組むようになったのは、大学3年の冬でしたが、私は大学で開講されている教員採用試験対策講座を3年生の4月から受講していました。この講座では、採用試験で狙われやすい部分を熟知した講師の先生方が授業を行ってくださるので、大変効率よく勉強することができます。雪の降る寒い季節になっても、勉強会はむしろヒートアップしていました。学科のネイティブの先生の研究室に毎週訪れ、英語力向上を目指しつつ、勉強会では様々な分野の問題をクイズ形式で出し合い、教養試験の対策を行いました。4年生になり、教育実習などでなかなか勉強に集中できない時期もありましたが、仲間との支え合いのおかげで、無事に一次試験に臨むことができました。受験した自治体はみな異なりますが、努力の成果もあって全員一次試験突破を果たしたのです。

一次試験の結果が出る前の7月中旬から、私たちの二次試験対策は始まっていました。一次試験を突破した新たな仲間も加わり、勉強会はさらに熱を帯びてきました。自分たちで試験官役をしながら面接や集団討論の練習を行い、お互いにフィードバックをすることでお互いの弱点克服を図りました。夏休みはほぼ毎日大学に通い、何度も練習を行いました。これだけやったのだから大丈夫という自信と、私には支えてくれる仲間がいるという心の支えがあって、二次試験では十分に力を発揮することができました。

私は一人では何もできませんでした。周囲に流されて就職活動にも手を伸ばし、進路に悩んだこともありました。英語力も授業力も私にはありません。あったのは「仲間」という存在だけでした。このかけがえのない仲間、私は心から感謝しています。また、ご協力してくださったゼミナールの上村妙子先生をはじめ、諸先生方に深く御礼を申し上げます。仲間と分かち合う喜びを、これから採用試験を受ける皆さんにもぜひ味わってもらいたいと思います。



英文科教職の先生方とかけがえのない仲間たち

教員採用試験体験記

いま思うことー教師になるにあたってー

法学部政治学科4年 岩男 武

「教師にとって必要なことは何か？」突然、このようなことを聞かれたらどのように答えますか。答える人によって様々な答えがあると思いますが、私は以下の3点だと思っています。

1つ目は、生徒への愛情と教育への情熱です。これは、教師という職業に就くのであれば、必ず持っておかななくてはならないものです。心・技・体で言えば、「心」の部分にあたります。教師が熱を持っていなければ、生徒に何を言っても伝わりません。反対に、教え方は下手でも熱があれば、自然と気持ちは伝わると考えます。生徒は教師の背中を見て育ちます。熱い気持ちを常にもった教師でいることです。

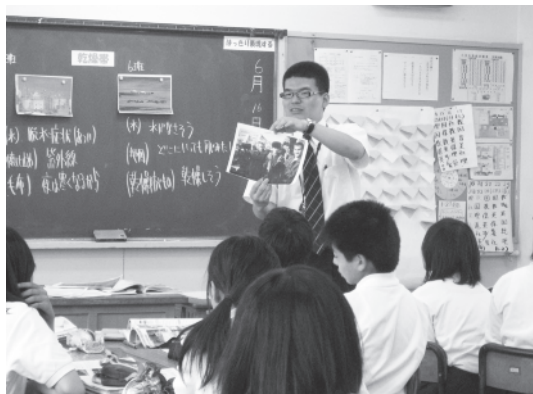
2つ目は、教師の実行力と決断力です。教師は、生徒の手本でいなければなりません。それは、同時に生徒よりも率先して行動しなければならないことを示しています。口だけで言うのは簡単ですが、「実」を伴ったものでなければ意味がありません。教師が「体」をはって動くことは、より説得力を持たせます。

3つ目は、教師の授業力と指導力です。教育実習先では、この力がとても重要だとおっしゃってられました。生徒は、教師の授業や態度をよく見ています。それによって、その教師が尊敬されたり、馬鹿にされたりすることはよくあることです。そうした意味では、日々の教材研究は必須と言えると思います。教師の観点から考えるのではなく、生徒であればどこで躓きそうかという観点で考えなくてはなりません。教師の持っている「技」が試されているのだと思います。

以上3点は、私の目標であり、目指すべき姿

がそこにあります。これから、教職をめざされるという方々は自分自身に限界を設けず、常にチャレンジをしていく気持ちをもってほしいと思います。私も、教育実習や大学の模擬授業で苦戦してきました。しかし、いま振り返ると無駄なものは一切ありませんでした。もがき苦しむ中にこそ、チャンスがあるのだと信じています。あきらめることなく、自分の目標に向けて走り続けることです。

最後に、教師という職業は自動的に「先生」と呼ばれるため、ついつい自分の能力を過大に評価してしまいます。本来、教師と呼ばれる人々は、「教えることが上手な師」だけではなく、「人に教わることが上手な師」でなければなりません。私もこの点に注意をし、人への「感謝」を常に忘れず、「生徒から学び続ける教師」でありたいと思っています。教職を目指している方々も、いまの現状に満足することなく、常に「感謝」と「学ぶ姿勢」を大事にし、日々の勉学に励んでほしいと思います。4年間、私を育ててくださったすべての方々への「感謝」の気持ちを忘れずに、教壇に立ちます。本当に、ありがとうございました。



教員採用試験体験記

平成20年度商学部商業学科卒業 山本 翔太

みなさんこんにちは、私は平成21年専修大学を卒業し、現在公立中学校に講師として勤めている山本翔太です。今年何とか千葉県の中高社会で採用されることができました。今回の体験記では採用試験の勉強方法、実際の試験の内容の二点について書いていきたいと考えています。

始めに採用試験の勉強方法についてです。勉強を本格的に始めたのが、2010年の11月頃でした。その頃私は、大学院に通いながら、専修大学の二部科目等履修生で教員の免許を取得するという学生生活を送っていましたが、比較的時には余裕がありました。この時期は、教職教養を徹底的にやって、過去問や、参考書などで、8割から9割程度取れるようになるまで繰り返し勉強しました。その中で、教職教養はある程度取れるようになってからは勉強する必要があまりないと感じました。注意した方がよいことは、参考書1冊と自分が受けたい都道府県の過去問1冊で充分だということです。何故かという、教職教養に関して色々な参考書がたくさんでいて、難易度も易しいものから難しいものがあります。教職教養は1冊解きやすいものを選び、過去問を徹底的にやりこめばそれ以上、難しい参考書を複数買う必要はないと思います。

採用試験の勉強は教職教養まで順調にいていましたが、次に取り掛かった専門科目（中高社会）が思うように進みませんでした。というのも、順調にいていた教職教養と同じ感覚で取り組むと、全てできなくて自信をなくし、時間的な余裕があるので、友達と遊びまわるといふサイクルが出来上ってしまったからです。しかし、冬休みが明けてから、絶対教員になりたいという気持ちを見つめなおして、また取り組み始めました。時間がたくさんある時は、どうしても集中力が続かなかつたので、時間で区切ったり、単元で区切ったりして勉強を続けました。千葉の中高社会を受験するので、中学社会、高校日本史、世界史、地理、公民全ての分野を万遍なく網羅する必要があります。始めに、わからない分野の基礎を作る必要があると考えて、中学、高校の教科書を読んで内容を理解することから始めました。参考書も色々買って勉強しましたが、教職教養同様、解きやすく1冊すべて暗記できるようになると、過去問1冊を徹底的にやれば大丈夫だということがわかりました。しかし安定して点数を取れるようになってきたのが、試験直

前の6月頃だったので、このやり方を全て真似すればいいという訳ではないと思います。いろいろなやり方があると思うので、1つの参考にしてください。

次に、実際の試験内容です。1次試験では、教職教養は基本的な問題だったので、問題なく9割とれましたが、専門科目はかなり苦戦して7割程度しか取れませんでした。問題内容も各分野から万遍なく出題されていて、日本史はたくさん解けましたが、世界史はあまり解けなかったなど偏りがあり、受験する際は弱点なく挑むことが良いと思いました。小論文に関しては、事前にどれだけのテーマを書きに来たかによると思いました。問われた内容は、学校で起きた災害の後の生徒の心のケアについてでした。小論文は問題なく自分が書きたいことを書けました。2次試験は面接、模擬授業、適性検査です。始めに模擬授業を、導入7分間、テーマは自由で行いました。その対策として、私が行ったことは、徹底的に練習をして、色々な先生にその授業を見てもらうことでした。私は2011年の4月から講師として中学校で働き始めたので、今までの生活とは一変して、時間が全くなくなりました。部活の顧問も務めているので、土日の休みが一切なくなり、限られた時間でどれだけ勉強できるということを考える毎日でした。その中で感じたことは、講師として働いていると生徒と毎日接することができるので、絶対先生になりたいというモチベーションがとても上がるということです。そのような環境の中で、夏休みに、校長先生を始め、色々な先生に模擬授業、面接の練習に協力してもらいました。2次試験当日は自信満々で挑みました。模擬授業は練習の成果がでて、上手くいったのですが、面接は圧迫面接に苦しみ、耐える場面が非常に多くなりました。何を言っても、威圧的に返されることを繰り返し、30分間でたくさんの冷や汗がでました。しかし、自分が教員になりたいという気持ちを曲げなかったので無事突破することができました。

最後に皆さん、絶対に教員になりたいという気持ちがあれば必ず合格できると思うので、私の体験記の中でできることは参考にし、頑張ってください。

参考書 よくわかる教職教養100時事通信社
よくわかる中高社会100時事通信社
千葉県・千葉市過去問シリーズ 共同出版

教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 眞山 和姫

教員採用試験のための勉強について、私が行った方法を紹介したいと思います。教員を目指す皆さんにとって少しでも参考になれば幸いです。

私が教員採用試験の対策について最初に行ったことは情報収集です。採用試験は、限られた時間の中で効率よく勉強しなければなりません。ですから私は受験する自治体がどのような試験内容なのか、過去に何名の合格者を出しているのかなど調べることから始めました。過去問題を手に入れるために自治体の教育センターに赴いたり、教育実習中には新卒の先生に話をうかがったりもしました。いち早く情報収集することで、いつ頃何をすればよいのかわかり、勉強のスケジュールも立てやすくなりました。

私が受けた自治体の一次試験は、教職教養・専門教養・小論文の3つでした。教職教養は、過去問を中心に行いました。過去問を徹底的に分析した結果、私が受けた自治体では「教育原理」の割合が非常に高いことがわかったので、教育原理を重点的に勉強しました。また教職教養の試験には、1・2年次に履修する「教職に関する科目」の内容がよく出題されるので、ノートを見返したり、整理したりするとよいと思います。専門教養は過去問がなかったので、基本情報処理技術者試験などの資格の問題集一冊を繰り返し勉強しました。また、学習指導要領を余裕のあるうちに何回か読んでおき、教科の目標や目的をよく理解しておくことも大切です。小論文は過去に出題されたテーマを3パターンほど書いておき、試験本番では書いておいた小論文を応用して書きました。一次試験を振り返ると、過去問からその自治体の傾向をつかみ、効率よく勉強することができたので一次試験を通過することができたと思います。



勉強会



模擬授業の練習

二次試験対策は、一次試験が終了した直後から始めました。二次試験は模擬授業や面接などで「即戦力」があるかどうかを見られるので、講師経験のある受験者がいる中で学生が合格をつかむには今まで以上の努力が必要だと思います。面接は、主に自己PRなどの事前に提出された書類から質問されるので、事前に提出した書類の内容は何を聞かれても答えられるようにすることが大切です。私が質問された内容は「学生時代には何をしたか」などの経歴関係のものと、生徒指導や教科教育（私の場合、情報モラルなど）に関するものでした。聞かれたことに対しては具体的な内容を話し、わからない場合は正直にわからないと言うように心がけました。模擬授業では、一次試験に合格した仲間と計5回の勉強会を行い、模擬授業を現職の先生に見ていただきました。何回も模擬授業を繰り返し、先生方や受験生から講評をいただくことで授業展開が頭に入りますし、さらに良いものにすることができたと思います。模擬授業本番では、講師経験のある方々の模擬授業に圧倒されてしまう場面もありましたが、私は何回も練習した内容なので自信を持って臨むことができ、満足のいくものになったと思います。

私が採用試験に合格できたのは、ご指導してくださった先生方や一緒に勉強する仲間がいたからです。もし、周りに指導してくれそうな先生や採用試験を受ける方がいるなら、学内・学外問わず積極的に話を持ち寄るなど、機会を逃さないことが大切だと思います。教員採用試験までの道のりは大変なことも多いと思いますが、自分がやってきたことは必ず成果として現れるので、みなさんもぜひ仲間とともに頑張ってください。

教員採用試験体験記

平成22年度法学部法律学科卒業 山口 亮

私は、平成24年度東京都公立学校教員採用試験候補者選考に、小学校の校種で合格した、22年度の専修大学卒業生です。この教員採用試験体験記では、私の教員採用試験への



心構え、勉強法などを述べさせていただきます。この情報が、教員を目指す学生の皆さんに、少しでも役立てばと思います。

私は学校の先生になるなら小学校の先生になりたいと思っていましたが、専修大学では小学校の教員免許を取得することが難しかったので、中学校と高校の社会科の教員免許を取得し、中学校の先生を目指しました。しかし、大学4年次に平成23年度採用の東京都教員採用試験を受けましたが、7月の一次試験で落ちてしまいました。そんなとき、ゼミの教授に通信制高校のサポート校の講師を勧められ、9月頃から大学の授業がない日を利用して講師のアルバイトを始めました。その学校には、それぞれに難しい課題を抱えた子どもたちが通っており、その子どもたちと関わる中で、小学校教育の重要性を感じ、再び小学校の先生を目指したいという思いが強くなりました。さらに、この「小学校の教師になりたい」という思いを応援してくれる人が、私の周りにいてくれたので、決意を固めることができました。

このような経緯から、現在私は小学校の教員免許が取得できる別の学校に通っています。新しい学校に入学した4月。自分と同年の友人はほとんど就職し、さらに、新しい学校の同級生は年下ばかり。私は、自分の夢を追いかけられるのは今年が最後だと決意し、並々ならぬ覚悟で、7月の教員採用試験に向けて勉強を始めました。

東京都教員採用試験を小学校で受験した場合、一次試験の科目は「教職教養」、「専門教養」および「論文」です。教職教養の勉強では、内容を教育原理、教育法規、教育心理…などジャンル分けしてまとめ、覚えめました。また、教育基本法は、条文見出しを全て覚え、最終的に第何条に大体どんなことが書かれているか全て答えられるようにしました。

専門教養の勉強では、学習指導要領をよく読みこみ、各学年の目標や内容をまとめ、覚えめました。このような暗記の勉強は、通学中の電車の中や歩いているときなどに毎日行いました。このとき、一つのことにずっと取り組むのではなく、この駅までは教育基本法、次に学習指導要領、次に教育原理のプリントというように少しずつを毎日繰り返し取り組むほうが効果的でした。

また暗記以外に、過去問にも取り組みました。教職教養の過去問は、試験の日が近くなってから取り組み始め、間違ったところを確認していくようにしました。専門教養の過去問は、時間が許す限りたくさん取り組みました。たくさん解いていると、毎年どんな傾向で問題が出されているか分かり、自分に必要な勉強が何か分かってきます。また、しっかり時間を計って取り組むほうがいいと思います。問題量は意外に多いので、時間配分にも気を使わなければならないからです。

論文の勉強は、正直何もしていません。ただ、学校の先生に一番大切なのは、謙虚であることだと私は思うので、このことを心がけて書くようにしました。

一次試験に合格したら、次は二次試験です。二次試験では、個人面接表と指導計画を準備していき、集団面接と個人面接が行われます。どんな内容で行われるかは参考書などに載っているので、友達や学校の先生などに協力してもらい練習しました。

このように、教員採用試験に向けて一生懸命勉強してきましたが、私が一番大事だと思うのは、「学校の先生になったら自分は一番何がしたいか」という信念を持つことです。私は「信頼できる仲間を作ることができる人間性を育てたい」と考えています。これは面接用として準備したものではなく、教育実習や講師のアルバイトなど、自分のこれまでの経験から持った強い信念です。これを持っていたからこそ、論文や指導計画、面接表や面接時の受け答えで、多少うまく表現できなくても、ふれのない姿勢が伝えられたと思います。

これから教員を目指す皆さんも、「学校の先生になったら自分は一番何がしたいか」自分なりの信念を持って試験に臨んでほしいと思います。

教育実習を終えて（国語）

大和市立渋谷中学校 文学部日本語日本文学科日本語学専攻4年 志賀 勇哉

教育実習を通して私が感じたことは、自分のやる気次第で本当に楽しくて一生の思い出になるものだということです。私は神奈川県大和市にある渋谷中学校という所に行き、中学一年生を教えることになりました。多分、多くの方が中学一年生だから向こうから色々興味を持って話に来てくれると思っているでしょう。確かにそういう生徒もたくさんいますが、正直自分から心を開かなければ絶対に生徒は心を開いてくれません。特に担当が中学二年生や中学三年生なら尚更自分から心を開くことが大事だと思います。私は三週間毎日必ずクラスの生徒全員と一回は会話をするようにしていました。そのせいか、生徒から声をかけてきてくれたり、学校生活以外のゲームの話や恋の話など深い話まですることができ、本当に充実した日々を送ることができました。

私は4クラスで合計22回授業をしました。クラスによってそれぞれ特徴がありますので、それに応じた話し方や授業の進度を考えなければならず、準備がとても大変です。教壇に立つとすごく緊張します。ですが、生徒が分かってくれた時や自分の作ったプリントなどに一生懸命取り組んでいる姿を見るとすごく嬉しくなりますし、もっといいものを作ろうとやる気になります。教育実習の担当の先生には、授業をする際は全部を教えるのではなくて、「今日はこれだけは絶対に覚えてもらう」というように焦点を絞った方が良いと言われました。正直、一度にあれもこれも教えようとすると自分自身がいっぱいになってしまいますし何より生徒も困惑してしまいます。大変だと思いますが頑張ってください。

部活動に関しては私はあまり出ることができなかったのですが、積極的に出た方がいいと思います。何故なら、自分が担当ではない学年の生徒とも交流することができますし、

何よりそこから学校生活での会話発展にも繋がるからです。ぜひ参加してみてください。久しぶりに体を動かすと筋肉痛がすごいですけど…。

最後になりますが私が教育実習に行ってものごく嬉しかったことを一つ話したいと思います。これを聞いて少しでも皆さんがやる気になっていただけたら幸いです。私の教育実習最終日が本当は運動会だったのですが、雨の為通常授業になってしまいました。そして、いつも通り授業を行い、帰りの会になり最後に私からクラスの生徒に向けて話をするようになりました。私が話をしようとしたその時、一人の生徒が「なんか、もう運動会とかめんどくさいし…。」みたいな話を始めました。すると、周りの仲間から「そういうこと言うなよ」「お前帰れよ」と罵声が飛び交い、最後には「帰れ」コールが鳴り響きました。

すると、その生徒が急に席を立ち飛び出してしまったのです。クラス中は大騒ぎとなり、私自身もどうしたらいいか分からずパニックになりながらも担当の先生から追いかけてほしいと言われ追いかけてクラスに戻りました。戻った瞬間、私はびっくりしました。なんと、クラスの黒板に「どっきり大成功!! 志賀先生三週間ありがとうございました!!」と書いてあり、クラスの生徒からも「どっきり大成功!!」と言われ、色紙や手紙をもらいました。その瞬間、本当に涙が止まりませんでした。三週間という短い間には色々大変なことやキツイこともありましたが、こんな一生に残るような思い出はないと思います。

三週間は長いようで短いです。この三週間は自分自身がどう過ごすかで本当に変わります。私は将来もう一度教壇に立って、授業をしたり生徒と明るく過ごせる日々が送れるよう頑張りたいと思います。皆さんも実のある三週間にしてください。

教育実習を終えて（英語）

静岡市立清水飯田中学校 文学部英語英米文学科4年 長澤 友加里

私は6月6日から6月24日の3週間、母校である静岡市立清水飯田中学校で実習をさせていただきました。同級生6名と一緒に実習をすることができ、互いに授業を見学し意見交換や教材研究などの悩みも共有でき、とても恵まれた環境で実習をすることができました。私が担当したクラスは1年3組です。授業を受け持ったのは1年生と3年生で、大変でしたがとても勉強になりました。

教育実習をするに当たり心がけたことが3点あります。それは生徒と打ち解けること、いつも元気でいること、そして分かりやすい授業を行うことです。この3点を意識して実習に取り組みました。

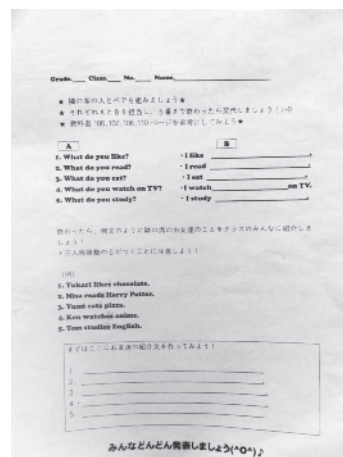
実習の内容は、1週目は主に授業参観と教案書作りでした。2週目から本格的に教壇実習を行いました。時間があるときは、生徒と一緒に部活動に参加しました。教壇実習については、本当に初めての経験ばかりで最初は失敗の連続でした。50分間をどう使うか時間配分が分からず、早く授業が終わってしまうことや板書を何度も消しては書くことを繰り返し、文法説明が不十分で終わってしまう事がありました。しかし、指導教諭の先生や同じ英語科の先生方から、「板書は授業が終わった後にその日の内容が分かる様に書く、文法の説明や定義は全て板書する、指示を明確に出す」など多くのアドバイスをいただき、また自分自身で授業を振り返り、毎回少しずつ改善していくことができました。授業が50分間ということ意識することにより、スペースいっぱいを使ってまとめて板書する事が少しはできるようになりました。文法説明が不十分で終わらないように、その単元に関連することを様々な角度から調べること、関連する単語や豆知識など、また自分の経験の中で生徒に伝えられることはないか？などをノートにまとめていました。私は実習授業のために、ノートの右ページには授業の全体の流れを書き、左ページにはその授業で自分が喋る内容を大体すべて書いていました。板書計画はもちろん、英語の挨拶なども簡単な内容ですが書いておきました。これは、頭では分かっているけどいざ教壇に立つと緊張して

しまい内容が飛んでしまう事を防ぐためです。こうして、授業の流れを考えてから視覚教材を作り、何度も何度もイメージトレーニングをして、家で練習しました。1年生を対象とした授業の方が多かったので、視覚教材にはとても力を入れました。自分がアニメのキャラクターを書いたプリントを用意し、大学生活の写真を使用することなど、より生徒の興味を引き出そうと心がけました。

実習授業をしてとても強く感じたことは、クラスによって全く雰囲気や生徒の理解度が異なるということです。そこは大変だと感じることもありましたが大変面白いとも感じました。また計画通りに進むわけではないので、目の前の生徒の様子を見ながら授業することがとても大切だと感じました。

次に生徒との関わりについてです。生徒とコミュニケーションが取れる時間は、授業中、休み時間、給食の時間、掃除の時間、部活動の時間でした。自分から積極的に生徒に話しかけることを心がけました。次第に生徒は心を開いてくれて、実習中はとても楽しかったです。一方で、先生でもなく生徒でもない実習生という立場だったので、生徒が私に友達のように接してくることがありましたが、生徒を叱るタイミングなど、生徒との距離を保つことも、とても重要なことだと思いました。

3週間はとても短く限られた時間しかありません。なので、何事にも全力で、失敗してもいいので色々なことにチャレンジしてみてください。辛いことがあっても生徒の前ではいつも元気に笑顔でいることを忘れないでください。生徒にはいつの間にか元気づけられていて、頑張ろうという気持ちになれます。みなさんが充実した実習生活を送れるように期待しています。



教育実習を終えて（公民）

私立藤沢翔陵高等学校 経済学部経済学科4年 牧野 博幸

実習概要

自分は6月に、母校の私立藤沢翔陵高等学校で3週間お世話になりました。普通科・商業科・特進科があり、教科指導では1年普通科3クラスと3年特進科1クラスを、学級指導では1年特進科を担当しました。出勤時間は8時半厳守でした。

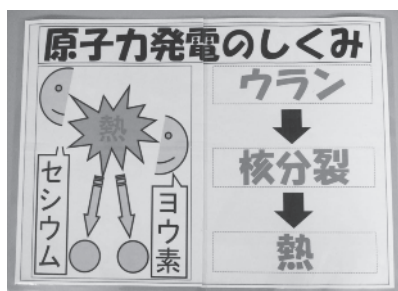
事前準備

4月に担当学級や指導範囲の説明があり、その際に必要な教材一式もお借りました。実習校から、ある程度まとめて事前準備をしておくよう指示されていたので、授業計画は5月下旬までに終わらせ、実習1週間前に教科指導の先生に模擬授業を見ていただきました。それでも、教材準備や実際の授業進度の都合で、授業直前まで準備と研究に追われた日もありました。

教壇実習

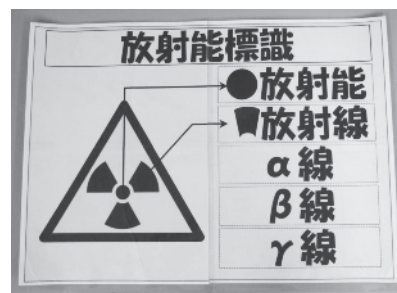
自分の場合、初日から教壇に立ちました。まずはクラスの雰囲気や生徒を知り、同時に自分を知ってもらうための自己紹介を心がけました。2色刷りのカードを用意し、自己紹介をしながら質問にカードの色で表現してもらうことで、教室全体を巻き込み、楽しみながら生徒との距離を縮めることができたと思います。ただ、自己紹介で予定よりも時間を消費してしまったため、指導の先生からはもう少し短縮するよう注意を受けました。教科指導では、各単元に生徒の興味を引くための記事や教材となるような事件を探し、自作のA2サイズのフリップを使いながら、指示や発問を多めに授業を展開しました。9割近い生徒は授業後や放課後に「面白かった」「解りやすかった」と言ってくれましたが、退屈そうな生徒や眠そうな生徒もいて、全員が積極的に受けられるような授業はどうしたら良いのか、この教育実習で大いに反省すべき点となりました。

教壇に立って実感したことは、同じ学年でも教室によって大きく雰囲気が異なることです。クラスに応じて働きかけや発問を変えざるを得ないこともありました。



3年次の進路指導論での授業が思わぬところで役に立ったこともあり

ました。見学している授業の中で、生徒からの要望により、いきなり自己紹介をすることになりました。最初は自分を見下したようなクラスの雰囲気だったのですが、彼らの卒業後の進路希望が揃って就職だったため、授業の応用的価値とその学び方について語ってみると、数人が敬意をもって接してくれるようになりました。



実習を終えて

教師の職務が如何に難しいかを考えさせられた3週間の実習でした。人身事故の影響で授業がなくなり、授業計画の変更を余儀なくされる日もありました。教師が指導に命懸けで行なっていると感じることもありました。放課後、学校近くで事件があり、強制下校となったハプニングもありました。生徒の見えないところで様々な激務に追われる先生方に驚かされるときもありました。保護者懇談会に参加し、緊張で倒れそうになった日もありました。他にもここに書ききれないほど多くのことを体験し、考えさせられました。現場にいないければこれほど多くのことを学ぶことはなかったと思います。

これから教育実習を迎える方へのアドバイス

皆さんは「実習生」という扱いで学校に行きますが、生徒にとっては同じ「先生」です。社会のように授業時数が少ない科目では、指導の先生に教え直してもらう時間が無い場合もあります。実習生の責任は計り知れないほど大きなものです。それだけは忘れず実習に臨んでください。

もちろん、どれだけ教材研究をして、熱意を持って授業をしても、嫌になったり、投げ出したくなったりすることもあると思います。そんな時は、身近にいる先生に相談しましょう。必ず手を差し伸べてくれるはずです。

最後になりますが、あなたの実習が充実したものとなるよう、心から期待しています。

教育実習を終えて（商業）

私立米子松蔭高等学校 経営学部経営学科4年 中嶋 春香

1. はじめに

私は6月2日から6月15日の2週間、母校である鳥取県の米子松蔭高等学校にて教育実習を行わせていただきました。実習先までは自転車で通いました。実習生は私を含めて3人おり、皆、「簿記」が担当科目でした。その為、休みの時間を利用してお互いに情報交換を行ったり、知識を出しあったり切磋琢磨し合いました。なお、私はHR兼教科担当として2年G組（男女合わせて20名）と簿記の教科担当として1年F組（男子1名）の2クラスを受け持ちました。

2. 実習前の取り組み

私の場合は5月28日に事前打ち合わせが行われ、教材が手渡されました。その教材を教育実習が始まるまでに研究（予習）しました。教材研究に関しては、大学の授業で使ったテキストをみたりしながらどのように教えたらいかがを考えました。

3. 教育実習1日の流れ

朝7時30分頃には学校に到着し、実習生用に用意された教室で授業準備やその日のスケジュールを確認しました。8時30分に朝礼が行われそれが終わり次第HR担当クラス（2年G組）の朝のHRに出席しました。HRではクラス担任にかわって学校行事の連絡やテストの連絡などを生徒に伝える役目を果たしました。HR終了後は教科担当の先生の指導のもと動きました。放課後は余裕があれば部活動に参加し、生徒とコミュニケーションを図りました。主として放課後は、教材研究や実習簿作成の時間に費やしました。

4. 教科指導において学んだこと

初日から3日間は、教科担当の先生の授業見学を行いました。最初に感じたことは授業時間が短く、予定している範囲を終わらせるかつ、生徒に理解させることがいかに難しいことかということです。授業見学では時間の使い方と生徒への気配りについて学びました。実習4日目の初授業（2年G組）では、指導案を意識しすぎた結果、時間への焦りを感じてしまい板書が汚くな



り、説明も短くなってしまいました。また、黒板ばかり見て、生徒に対して背を向けている時間が長くなってしまいました。実習7日目ようやく生徒の方へ向き大きな声で話すことができるようになってきました。しかし研究授業を行う1年F組は1対1の授業であることから、声が小さくなりがちであるという問題がありました。前日までに教材研究をしっかりとやったつもりでも、実際授業をやってみるとうまくいかない点が多くあるということを学びました。

5. 教科指導で苦勞したこと

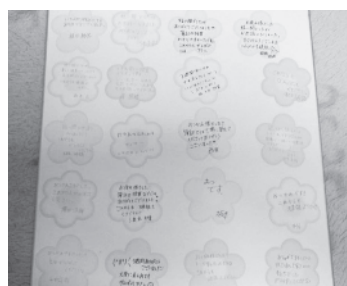
何といたっても授業準備です。「教える」ということは生徒よりも数倍知識を入れていないといけないということになり、質問が出てもきちんと答えられるようにしなければなりません。自信がないようなそぶりを見せると、生徒は不信感を募らせ、授業を運営していく上で危機的状況に陥ってしまいます。そうした危機的状況に陥らないように生徒がつまずくだろう所を予測しどのように教えればいいかを考えることが大変でした。それでも答えられない問題は「次回までに必ず調べてくる」と言っていました。

また、机間巡視の際、つまずいている子に対して懇切丁寧に教えていると周りの子の指導ができなくなってしまうということも大変苦勞しました。

6. 最後に

教育実習が始まる前は不安で一杯でした。しかし、実際に始まってしまうと、実習生の仲間や教職員の方々に支えられ、無事に最後までやり遂げることができました。この教育実習を通して改めて、教師の大変さと楽しさを学ぶことができました。また、高校生時代では知りえなかった先生方の考え方を直に知ることでもできました。

これから実習を行う皆さんへ。教育実習は本当に大変だと思います。しかし、乗り越えた先に得られる達成感はとても大きいです。実習1日1日を大切にし、日々何かを学ぼうという姿勢で取り組んでみてください。



教育実習を終えて（情報）

千葉県立船橋芝山高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 眞山 和姫

私は5月下旬から6月上旬にかけて千葉県にある県立高校で教育実習を行いました。実習科目は情報で、ホームルームは2年生のクラスを担当しました。

教科指導で最も学ぶことができた点は生徒観についてです。教育実習前に大学で何度も模擬授業を行ってきましたが、そこでは大学生が生徒役になるため、実際の生徒を相手にして授業をするとなると、予想外なところで戸惑う場面が多くありました。大学生相手では、とくにつまずかなかった部分でも、実際の現場では、予想以上に時間がかかってしまう場面がありました。自分が想定していたより高校生のコンピュータスキルに幅があるなどの実情を把握しきれなかったので、予定していた授業ではうまく進みませんでした。模擬授業では、声の大きさや教材研究などたくさんのことを学びましたが、想定してきた生徒観と実際の生徒観にギャップがあると感じ、実習では、生徒のコンピュータスキルを配慮し、生徒が積極的に学習活動できる授業に方向転換することにしました。このように、実際の生徒観は現場に行かなければわからないので、実習前に教科担当の先生に聞くなどの対策をとる必要があると感じました。しかし、予想外の対処については、経験も大切だと思います。私も、はじめのころは適切な処置ができなかったり、わかりやすく説明できなかったりしましたが、授業を重ねていくうちに少しずつ改善できるようになりました。だからこそ、その経験の質を高めていくために、現場での授業で学んでいくことが重要であるとアドバイスしたいです。

教科担当の先生は情報教育に対して熱心な方で、授業のことはもちろんですが、授業外にも学会やシンポジウムなどに連れて行ってくださいました。学会やシンポジウムでは、ベテランの先生方の授業実践を聞くことや、情報教育についての知見を増やすことができました。実際に学会に参加したことで、さらに深く教材研究ができました。世の中には情報教育に関する良い教材がたくさんあります。それに気づくことができたのも、シンポ

ジウムに参加したからです。その経験を教壇実習に生かすことで自らの授業の質が高まったと実感することができました。このように、実習中は時間が限られていますが、休日にも積極的に勉強しに行くことで、より密度の濃い時間を過ごすことができます。

実習中の時間確保は私の中でも大きな課題でした。しかし自分の授業をよりよいものにしていくためには、自分の時間を削って研究にあてることが大切です。研究した分だけよりよい授業が必ずできます。実際に、私は教育実習で生徒たちの反応の違いを実感しました。よりよい授業をするということは自分のためだけではなく生徒たちのためにもなります。大変だと思いますが、よりよい授業をするための向上心を常に持ってほしいと私は考えています。

3週間という短い期間でしたが、先生方や生徒たちとの関わりの中でたくさんのことを学び、反省点も見えました。私がこうして教育実習を乗り越えることができたのは、ご指導くださった先生方や互いに支えあった教育実習生の存在があったからです。このすべての人に感謝し、教育実習で学んだことをここで終わらせずに次に生かしていきたいと思っています。みなさんも、教育実習を通して多くのことを得ることができるでしょう。しかしそれは、簡単な道ではなくつらいことや苦しいこともあります。だからこそ乗り越えたときに大きな達成感と得られたものの大切さに気づくことができるのです。必ず乗り越えられます。がんばってください！



教育実習を終えて（数学）

私立専修大学附属高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 横山 哲

はじめに

私は、母校である専修大学附属高等学校で実習を行いました。実習期間は5月30日～6月18日までの3週間でした。実習校までは朝方の電車であれば、家から1時間15分ほどでした。

母校ということで、何人かは実習生がいるのだらうと思っていたのですが、実際には30名弱の希望者が5～6月と9月に分けられ、私と一緒に実習を行ったのは20名程でした。

ただし、数学科は私の他にはもう1名しかおらず、大半が社会科の実習生でした。他教科の人が多いのは、自分自身の授業にない事をやっているの、自身の授業を見直す良ききっかけになりました。実習期間中は、実習が上手いかなかった等で精神的に落ち込むことも多かったですが、それを他の実習生に相談することで、気持ちも新たに実習に取り組めました。

1日の流れ

朝は大体6時過ぎの電車に乗り、7時過ぎには登校し、その日の授業の準備や部活動の朝練に顔を出したりしていました。7時55分からは当番制で、朝の登校指導を行い、8時15分からは職員会議でした。その後、朝読書、S.H.Rを行うと、1時間目が始まり、4時間目まで行くと昼休みになります。午後は5・6時間目、帰りのS.H.R.、清掃を行うと、16時には下校の許可が出ましたが、人によっては部活動に顔を出したり、他の実習生も含め、そこから指導案の作成や授業の準備などで大体18時、19時。許可をもらってもっと遅くまで残って頑張っている人もいました。

授業の他には、S.H.R活動、学級日誌のチェック及びコメントの記入が、どの実習生にも各指導教諭から与えられていました。

生徒の雰囲気

私の担当クラスの2年B組は、2年生ということで高校生活にも慣れており、一人一人が毎日の生活にある程度余裕を持っているように思えました。2年生は1年生よりもしっかりしていて、3年生よりも落ち着きがない、まさに1年生と3年生の間を取ったという感じでした。

教壇実習

教壇実習において大切なことは、準備です。何よりも、準備！授業の内容を準備するだけでなく、その授業を成功させるためには生徒とコミュニケーションが取れなければなりません。なので、教壇実習までに生徒の名前や、どのような子なのかなどを、知っておく必要があります。特にH.R担当クラスの授業があればなおさらです。授業のみのクラスの生徒は、そのクラスの担任の先生から名簿をもらうなどをして、準備しておくことが大切です。

また、数学は人によって好き嫌い、出来る、出来ないがはっきりしている教科であり、特に分からない生徒を授業に参加させるために、授業の導入部分でどのような入りをするのかや、その単元の最初にどのような言葉を使うかなどを考えておく必要があります。また、自分自身がきちんと授業内容を把握していないと生徒に説明する際、間違った内容を話してしまい、その時点で生徒の理解は難しいものになってしまうので注意が必要です。授業の内容は理解度に幅があるので、そのクラスの平均が少し下ぐらいに合わせることで、比較的クラスの皆が授業に参加しやすい状況になったことなども、とても勉強になりました。

最後に

3週間の実習で、人の前に立っている時の言葉の重要性が分かった気がします。また、準備をすることで授業の内容は全く違うものになってくるのが、やっている側も、そして受けている側にも分かります。いくら準備をしても万全ということは、ほとんどないので、常に事前準備をしてください。授業を成功させると教育実習は、とても楽しいものになってくるので、皆さん、是非楽しい教育実習が送れるように頑張ってください。



教育実習を終えて（小学校）

豊島区立池袋第一小学校 文学部心理学科4年 中山 彩子

私は10月3日から4週間、豊島区立池袋第一小学校で教育実習をさせていただき、第5学年を担当しました。教壇実習は20時間を越え、国語や算数、理科や社会の他、体育や家庭科、書道などの教科も授業の機会をいただきました。実習期間には縦割班でお店を出す集会や校外学習の引率など、授業以外の学校行事にも数多く参加させていただきました。他学年のさまざまな教科の見学時間も設けていただき、学年のカラーや学年に合った指導法などを学ぶことができました。沢山のことを学びましたが、この実習を通して強く感じたことは主に3つあります。

まずコミュニケーションの大切さです。教育実習生、というだけで興味をもって積極的に話しかけてくれる子が沢山います。しかし話しかけてくれるのを待っている子どもたちと早く打ち解けることができません。小学校に限らず、担当クラスの顔と名前を早く一致させ、コミュニケーションをとっていくことが大切だと思います。そして担当クラスだけでなく、隣のクラスや他学年の子どもたちともコミュニケーションを図り打ち解けることが必要だと思います。子どもたちの中に入って関わろうとすることで、子どもたちも心を開いてくれます。授業の時間以外にも休み時間や給食、掃除の時間など子どもたちの活動時間は数多くあります。その中で関わりながら、どのような子なのかを知ることがとても大切だと思います。良い関係を作れるよう、子どもたちとできるだけ多く関わるのが実習では必要だと考えます。

次に授業の大変さです。小学校では中学校や高等学校とは異なり、一度考えた授業は担当クラスだけでしかできません。そして担当教科が一つ、という訳にもいきません。次から次に進んでいく授業を考えていくのはとても大変でした。授業のわかりやすさは勿論、発問の内容・仕方の工夫や間の取り方といった点にも苦労しました。教科によってグループワークを取り入れてみたり実験をしてみたり、一つのことを教えるのにも沢山の方法があり、実習を通してさまざまな教え方を担当の

先生から学ぶことができました。

小学校では全日経営といって担任の先生として朝から帰りまでを見ることが実習内容の一つとしてあります。教壇実習の時間だけでなく、一日を通して児童と関わるので子どもたちのいろいろな表情を見ることができます。苦手な算数の時間には授業の残り時間が気になって仕方がない児童も、得意な体育では1秒も無駄にしないように積極的に動いたり、普段は大人しい児童も得意な教科のグループワークでは意見がはっきり言えていたりとさまざまです。長い時間関われることで子どもの個性など、新しい発見ができます。一日中クラスにいて子どもたちと関われることは小学校ならではの醍醐味だと思います。

最後になりましたが、どの学校種でも実習中に大変なことは尽きないと思います。実習生として何でも全力で取り組むことが大切だと思います。実習をさせていただき感謝の気持ちと何でも吸収しようとする姿勢が大切だと私は思います。そして何より子どもが好きだという気持ちが大切です。私たちが実習をするに当たり、沢山の先生方が協力してくださっています。限られた期間の中で先生方の技を見て、自分の力に変えていく努力が必要だと感じます。そして子どもたちと沢山遊んでください。それが子どもにとっては嬉しいことで、私たち実習生にとっては一人一人のことをよく知る機会になります。多くの人にとって一度きりの教育実習です。貴重な体験になると思うので楽しみながら日々勉強し、頑張りたいと思います。



介護等の体験を終えて

文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻3年 小泉 有沙

私は6月に特別支援学校で2日間、そして10月に社会福祉施設で5日間、合わせて7日間の介護等体験をさせていただきました。とても壮絶で、しかしとても学ぶことの多かった7日間でした。ここで特別支援学校と社会福祉施設で起こったこと、感じたことをそれぞれ私なりにまとめてみようと思います。

1. 特別支援学校

私が体験させていただいたのは神奈川県立中原養護学校の知的障害を持った高校1年生のクラスでした。体験が始まる前まではこういった態度で生徒と接すればよいのか、いきなり癇癪を起こしたらどうしたらいいのかなど、どうしようもない不安でいっぱいでした。しかしざ彼らの輪に入ってみると確かに知能は健常者の子どもより多少は遅れているものの、私たちと同じように好きなアーティストがいたり、好きなテレビ番組があったり、むしろ私より詳しく知っている話などをたくさん語ってくれるなど「知的障害」というハンディキャップをまったくといていほど感じさせないくらいに元気で、何より私が無意識に作っていた壁をいとも簡単に壊してくれました。

知的障害をもつ生徒が所属するクラスでは、毎日交互にラジオ体操とランニングといった体作りを行って健康増進を図っています。ラジオ体操はみんな楽しそうに行っていたのですが、やはりランニングともなると張り切る生徒から途中で歩いてしまう生徒まで見受けられ、先生方も大変そうでした。私も担当していたクラスの生徒と一緒に走っていたのですが、ここで私が「疲れた」なんて絶対言ってはいけないと思い彼らを励ましなが走りました。みんなで一緒に歩くことなく完走することが出来、とても嬉しかったのを覚えています。

なにをするにも、なにを話すにも、彼らは誰よりも純粋な心を持っているということに2日間を通して気付くことが出来ました。

2. 社会福祉施設

社会福祉施設は生活リハビリクラブ戸手で5日間体験させていただきました。ここでは毎日違った利用者の方、施設の方と顔を合わせるので皆さんの名前を覚えることに一苦労しました。しかし利用者の方々とコミュニケーションをとるには相手の方の名前を呼ぶこ

とがとても重要であることに気がつきました。目の見えない利用者の方にお茶をいきなり渡すとびっくりされてしまうし、唐突に話しかけてもなかなか反応してくれないことが多々あったからです。そして話しかけるときは相手の方と同じ目線になって目を合わせて話すという当たり前の姿勢を改めて思い直しました。また、これらはお年寄りの方々の特別なコミュニケーションの取り方というわけではなく、一般的であるけれど忘れてしまいがちな大事なコミュニケーションの取り方であるのだと感じました。

さらに、それぞれの利用者の方でも一人ひとりに対応に違いがあり、例えばコーヒーに砂糖を入れるか入れないかであったり、食事におけるご飯の量などその人に合った環境が生活リハビリクラブ戸手では提供されていました。ここにきて改めて「対個人」の大切さに気付かされました。

また、私は自分から利用者の方々に話しかけようと努力しました。しかし世代の違いや聞いてはいけないプライバシーなどを気にしすぎて無難に天候の話や私自身の話ばかりしてしまいました。2、3日するとそういった話のネタも尽きてきて困ってしまいましたが、次第に利用者の方から話しかけてくださるようになり、為になるお話をたくさん聞かせてくださったり、時に姿勢の悪さを注意されたりと人生の先輩方からいろいろ勉強させていただきました。

特別支援学校と社会福祉施設での実習を通して、どちらも新しい世界に足を踏み入れたような体験でしたが、大勢のうちの一ではなく一人ひとりと向き合うことの大切さを学び、実感することが出来ました。楽しいことばかりではなかったけれど、この経験は教職課程としてだけではなくこれからの人生で大いに生かしていきたいと思います。



インターネット全盛時代の地理教育に関する一考察 —教材研究の深化のために—

経済学部 兼任講師 増田 純一

1. はじめに

インターネットの普及により、いつでも、好きな所から、様々な情報を、容易に得られるようになった。また、BS 放送には、紀行物が多い。地中海豪華客船クルーズから、アジアの地方都市ローカルバスの旅、あるいは聖地巡礼まで、色々な視点から、世界の様子・景色を見ることができる。

確かに、教材研究は、楽になった。加えて、現職教員の学習指導案や、そのまま教材として使用できる動画を公開するサイトもある。だが、気軽にこれらを利用すると、そこには落とし穴も潜んでいる。

インターネットで得た情報を、何ら検討することなく、複数寄せ集め、切り張りし、レポートを作成する、いわゆる「コピペ（コピー・アンド・ペースト）」と、同じレベルで、教材研究、学習指導案の作成を行い、教師自身の理解が深まるであろうか。また、生徒の興味・関心を引き起こす授業を展開することが、果たしてできるであろうか。

「教職を目指す学生へのメッセージ」として、本稿は、「ネット世代」の諸君へ、インターネットに頼り切った教材研究への懸念を示すものである。教科は、中学校社会科地理的分野および、高等学校地理歴史科地理を念頭に置く。

2. インターネットが変えた地理教育

第7次学習指導要領改定（中学校は、平成10年改定、同14年度から実施。高等学校は、同11年改定、同15年度の新入生から年次進行で実施）では、社会科の「教科目標においては、学習過程を重視し、とりわけ『学び方を学ぶ学習』を一層重視する観点か

ら見直し、改善」が図られた。この改定を受け、ややもすると、網羅的で知識偏重と批判されがちであった学習から、学び方や調べ方学習、作業的・体験的学習、問題解決的学習など、児童生徒の主体的な学習が重視されるようになった。

しかし、この「学び方」とは、事実上、インターネット検索による「調べ学習」である。中学校社会科地理的分野の教科書巻末を参照しよう。例えば、帝国書院は、「インターネットの活用の仕方」と表記し、情報を集め、加工し、発信する方法を教える頁がある。他方、日本書籍新社は、「インターネットを使って地球を考える 世界の文化・自然」という項目で、「世界遺産」をキーワードに、関連サイトを閲覧する方法を教える頁がある。そして、「調べ学習に役立つインターネットアドレス」と表記（帝国書院）し、両社とも、各省庁、都道府県庁、各国大使館などのアドレス一覧を掲載する。

このような流れは、インターネットが普及した現代、当然の傾向と考えられるが、その一方で、学習指導要領には、次のような表記もある。「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる」。

文献調査、現地赶赴での聞き取り調査など、体験的学習の重要性を併せて言及されているにも拘らず、ネット世代の諸君は、この点を極めて軽視しているように思えてならないのである。

ブログやツイッターなど、個人による情報発信が容易になったことは、インターネットの世界を広げたが、その反面、精査されない情報が、無制限に広められたことも、また現実である。情報発信者が、どのような立場で、どのような意図をもって、発信したか、閲覧者が、判断しなければ、偏り・誤りを含む知識を吸収してしまう危険が大である。いわゆる情報リテラシーの必要性である。無論、文献調査も、同様の注意が必要であるが、出版までに多大な労を要する書物より、手軽に開設できるホ



ームページの方が、より顕著に見られる傾向にある。

3. 社会の先生見てきたような嘘をつき

筆者の在学中、地理学を担当して下さった先生は、語り口も巧みで、様々な教えが、今も印象に残っている。その1つに「社会の先生見てきたような嘘をつき」と言うのがある。生徒に、世界の様々な様子を話して聞かせても、「そんなこと言って、先生、見たことあるの?」と尋ねられ、教師が怯んでいては、説得性は失われ、授業が進めにくくなる。ならば、堂々と「見てきたよ、あれはすごかったね」と、嘘をついても構わない、というのである。

しかし、この教えは、海外旅行が未だ一般的でなかった時代に、通用したものかもしれない。グローバル化した現在、観光旅行はもとより、父兄の海外赴任に伴い、海外の長期滞在経験のある生徒、外国籍の生徒も珍しくない。残念ながら、「見てきたような嘘」は、直ぐに見破られてしまうであろう。筆者は、現在、この教えを、「自分で懸命に調べたことは、自信を持って堂々と話せば良い」と、解釈している。

自分が行くことの出来ない地域の研究には、やはり、インターネットやBS放送は、確かに有難い。しかし、あくまで1次資料、換言すれば、興味、関心への手がかり、理解への第1歩でしかない。所詮は、他人の感動である。教師自身に実感、感動がなければ、生徒へ真摯な働きかけ、興味、関心の引き起こしには至らないであろう。

近年、若者が海外への関心を失っているとの、指摘をしばしば耳にする。幾人かの学生に、夏季・春季休暇などを利用して、海外旅行（語学研修を含む）をするか、尋ねても、大半の者は、興味を殆ど示さないように感じる。経済的な問題、昨今の就職活動の過酷さを考慮すれば、旅行を楽しむゆとりがないという理由は、痛いほど理解できる。

しかし、感受性が豊かな青年期に、「外の世界」に目も向けられないことの方が、遥かに損失は大きい。ここで言う「外の世界」とは、外国のことばかり

ではない。「自分自身にとっての未知の分野」という意味であり、ごく身近な地域にも「外の世界」は、多数存在する。都内近郊はもとより、少し足を伸ばして、多くのものを、どんどん見て欲しい。

加えて、学生時代とは、2ヶ月近いまとまった休みが、年間2度もある。また、企業・作業所への見学、聞き取り調査など、社会人より比較的、容易かつ好意的に、受け入れてもらえることも確かである。この時期を逃すことは、人生の大いなる損失であることを強調したい。

4. 伝統産業を調べる——高崎だるまのケース

伝統産業が、その地に根ざす理由は、市場に近い、原材料の入手の容易さという点のみならず、気候風土が要因となるケースも少なくない。

ここで、高崎だるまのケースを見る。群馬県高崎市では、年間170万個が、生産される。これは、全国生産量の8割近い数字となる。だるまと称する、郷土玩具は、全国各地に伝えられるが、多くの神社・仏閣の縁日で、縁起物として販売される、張子の起き上がり小法師は、大半が、高崎市で生産されたものと考えてよい。

4-1. インターネットで検索する

yahoo! および google で、「だるま」と入力し、検索すると、製造・販売元および黄檗宗少林山達磨寺のホームページ、そしてウィキペディアなどが上位に hit する。以下、順に見てゆく。

第1、或る製造・販売元には、写真ギャ



ラリーがある。選挙、合格など、様々な文字・名入れから、着色まで、消費者の祈願内容に応じて、受注するための、商品見本のページである。絵付け体験に至っては、観光客の呼び込みである。このサイトは、あくまで広告を目的としたものである。そこに、伝統産業として、由来や製造現場の様子を紹介するという視点は、希薄である。

第2、ウィキペディア。写真付で、4行弱の説明に続き、歴史説明が15行。次いで、「だるまの種類」という項目で、高崎、松川、白川、東京など、8種類の物が、紹介される。高崎だるまは、10行にわたる記述で、うち、「冬に風が強く乾燥する気候がだるま作りに適しており、農閑期の副業として盛んに行われた」との、地理的要因について、若干記述がある。しかし、他の地域の物は、外見上の説明を中心に、1～2行のみである。

第3、黄檗宗少林山達磨寺。「少林山について」、以下、年間行事や、禅のこころ、ゆかりの人物など紹介が続く。その中で、「少林山達磨寺の縁起」に続き、「だるまについて」という項目があるが、これは、禅宗初祖としての達磨大師、寺の本尊としての達磨像の由来が中心である。縁起物として販売されるだるまについて、ウィキペディアより、詳細に記述されているが、主に歴史的視点による説明である。

大概是、このように2～3のサイトを閲覧し、調査を終了するのではないだろうか。しかし、これらは、自社宣伝のため、仏閣の縁起紹介のため、開設されたサイトであり、地域研究としては、いずれも不十分と言わざるを得ない。ウィキペディアは、周知の通り、閲覧者の投稿による百科事典であり、必ずしも系統立てた説明とは限らない。項目によっては、質・量ともに不十分な内容も少なくないのが、欠点である。

4-2. 教材研究・考察を

深めるために——むすびにかえて

1次資料を精査するため、各種文献に幅広く目を通す必要がある。しかし、現実的には、各教科、各単元において、教師自身学ぶべきことが多く、あらゆる項目について、深

く調査、理解することなど、そうそうできることではない。しかし、何か、心に引っ掛かるものがあれば、少なくとも、例えば、大手出版社発行の百科辞典、岩波新書、講談社現代新書など、比較的手軽な参考文献には、積極的に目を通す習慣を、身につけて欲しい。

また、達磨寺の縁起について、目を通した後、日本史、世界史、倫理の教科書を読めば、宗教をキーワードに、各科目との関連を図った学習の深化が、期待できる。

高等学校地理の教科書に、「対象地域が身近な地域であれば、現地調査による見学・聞き取り・撮影などが効果的である」と、体験的学習を勧める記述がある。筆者は、農閑期の夕方、高崎市を訪れ、だるまの製造元を見学し、その後、観音山山頂を訪れたことがある。「上州名物空っ風」と言われる厳しい風は、頬を刺すと同時に、コートやスーツの生地の日を通り越し、肌を刺し、抜けていくようで、身体が芯から冷えた。だるまを乾燥させるために適した気候と、画面で説明されても、体験してみないと、こればかりは理解できないであろう。帰りのバスを、暗い中、1時間待つことになったが、不思議と風邪はひかなかった。これも御利益か？

参考文献

- 梅津正倫ほか(2010)「わたしたちの中学社会 地理的分野」 日本書籍新社
 中村和郎ほか(2010)「社会科 中学生の地理——世界のなかの日本」初訂版 帝国書院
 文部科学省(1998)「中学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版
 ——(1999)「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」 教育出版
 矢田俊文ほか(2010)「地理B」 東京書籍

ホームページ

- 高崎だるま販売職人真下輝永
<http://www.masimo-terunaga.com>
 黄檗宗少林山達磨寺
<http://www.daruma.or.jp>
 アクセスは、ウィキペディアを含めて
 2011年8月

教科研修生体験レポート

文学部日本語日本文学科日本語学専攻4年 和知 奈緒佳

1. はじめに

私は、昨年の9月から12月まで、神奈川県立荏田高等学校で、教科研修生として、国語科の授業に参加させていただきました。毎週火曜日、担当して下さいましたお二人の先生の授業に参加し、見学、机間指導などを行いました。

2. 教科研修を通じて学んだこと

私は教科研修生として授業に参加し、生徒でもなく、先生でもない立場として教室にいることにより、新たな視点で“授業”というものを考えることができたように思います。私の中で国語の授業は、“眠い”というイメージが強いものでしたが、生徒ではない立場として授業を見学し、その後で先生のお話を伺うことにより、先生方の授業展開の工夫や考え方に、私は多くの影響を受けました。

先生方の工夫の中で、特に印象に残ったのは、授業導入の仕方、生徒指名の仕方、生徒指導です。

まず授業導入ですが、先生の「国語に関する知識を増やしたい」という思いから、毎回の授業で“今日の格言”というものを生徒たちに話していました。この格言は、毎回の授業内容に関係するもので、テストにも出題されるということで、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。しかし、このお話は単にテストに出るからというだけではなく、高校生と言う多感な時期にピンとくるかもしれない格言を多く扱っていました。生徒たちはきっと、こういった些細な一言が心に響くことで、国語に関する、勉強に関する興味関心が湧き、意欲につながるのだらうと思いました。先生の生徒への思いやりがとてもよくわかる導入でした。

次に授業中の生徒指名についてですが、ここでも、先生の生徒たちへの気配りがよくわかりました。先生のお話によると、生徒たちは自分の名前を呼ばれることにより、注意を喚起されたり、集中しなければという思いになったりするそうです。そこで、先生は授業中になるべくたくさん、生徒の名前を呼ぶようにしているとおっしゃっていました。40人もいる生徒たちの中で、先生に名前を呼んでもらえたということで、生徒は先生とのつ

ながりを感じるのだらうと思います。

最後に、生徒指導についても、お話を聞かせていただきました。私がいる間、ドアのガラスが一枚、割れていたことがありました。このとき私は初めて、学校現場の問題となる部分を見ました。割ってしまった生徒は、謹慎になったそうです。ですが、このとき、先生は「そういうこともあるよね」とおっしゃっており、まずは“生徒の話を聞くことから始めている”とおっしゃっていました。先生のお話を伺うと、いじめもあったようですが、先生は公平に判断すること、生徒の話をしっかり聞くこと、生徒と向き合うことを大切にしているとおっしゃっていました。このお話からも、先生の生徒たちへの愛情を強く感じました。

この研修全体を通して、私自身が生徒であった時には気付かなかった、先生方の生徒に対する愛情や思いに気付きました。生徒のことを第一に考え、工夫しながら行動していらっしゃる先生方を見て、とても感激し、私の目標になりました。

3. 終わりに

私はこの研修を終えて、教育実習や、教員としての在り方についてのヒントを与えてもらえたように感じました。実際の学校現場では、大学の授業で考えられていたこととは全く違うことも起こり得ます。また、自分が生徒だった時には気が付かなかったことにたくさん気付くことができます。やはり、教師を志すのであれば、多くの学校現場や先生方の振る舞い、思いを知っておくことが大切なことだと思います。その一つとして、この教科研修では非常に有意義な時間を得ることができたと思います。



多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート

経済学部経済学科4年 伊藤 圭吾

私は、平成22年度4月から多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティアを通じ、川崎市立稲田中学校において野球部の指導補助という形で学校教育ボランティアに参加し、現在も活動を継続している。

主な活動内容としては、放課後の部活動の補助・練習試合や公式戦での指導である。

学校ボランティアに参加しようと思った動機は、実際の教育現場においての経験を積みたいということ、また、生徒たちや現職教員との関わりを経験することで、学校というものの実態や教員という職業の理解を深めたいということ、何より将来において中学校教員として野球部の指導に当たりたいと考えているからである。



この学校教育ボランティアを通じ経験したことは、下記のようなものである。

第一点目は、生徒の理解・生徒との関わりについてである。生徒たちには当然のように個々に特徴や性格がある。また、中学生という多感な時期を迎えている生徒たちであるから、たくさんの事に興味や関心があり、また、感情の変化が激しい。その中で、今日は生徒にどんなことがあったのか、今はどんな心情であるのかをコミュニケーションを取ることや様子を伺い感じ取ることで、生徒ひとりひとりを理解し、指導に当たることの肝要さを学んだ。また、生徒の中には、家庭状況などにより感情の起伏が激しい生徒なども存在する。それぞれの生徒がどんな悩みを抱えているのか、どんな心情であるのかを理解するためにも教員同士が知り得ている情報を共有し指導に当たるといことの重要さも学んだ。

第二点目は、上述したような感情の起伏が激しい生徒に対する関わりや指導の難しさについてである。両親との関係や友人との関係などにおいて悩みや不満を抱えているような生徒は、不安定な心情にあり、教員などに対

して感情を顕わにすることや反抗的な態度をとるといった場面が見られる。そんな生徒に対しての関わりや指導は、とても困難であった。学校教育ボランティアといっても生徒たちは、一人の教師として見るため、関わりを嫌う態度を見せる生徒も存在する。そのような場面では、生徒に対しどのように対応すべきであるのか、どのように関わるべきであるのかについて実際の教員の対応を目にすることが可能であるため、とても勉強になる。しかし、目にした事を即座に実践できるほど現場は甘くなく、そのような生徒に対して上手くコミュニケーションを取り、生徒を知り、理解し、指導に繋げるということが最も困難であり、現在に至っても勉強中である。

第三点目は、生徒たちの成長や変化を目にし、感動を味わい、教員としてのやりがいを感じたことである。学校教育ボランティアを通じ指導に当たった生徒や、少しでも時間を共にしてきた生徒たちが技術的に、精神的に成長したことを練習や試合、普段の生活態度などを通じて感じた時に喜びを感じ、また、教員としてのやりがいのようなものを理解できた。また、公式戦では部員全員が一丸となり、市大会を勝ち進み、県大会出場を果たすという素晴らしい成績を残した。その時の生徒たちの喜びに対する笑顔や悔しさに対する涙を目にした時は、生徒たちが精一杯に取り組んできた姿を思い起こし、とても感動した。

私は、この多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティアを通じ、実際の教育現場で教育の難しさ、やりがいを経験し、自己の曖昧であった教員への思いを確固たるものとする事が出来た。見聞きするだけでなく、実際に自身で体感することで教員という職業について理解を深める事が出来た。是非、将来の為に教員を目指そうという考えの方は、この学校教育ボランティアを活用し、実際に教育現場において体感することで教育についての理解を深めてほしい。



専修大学附属高等学校から 生徒と共に歩む

私立専修大学附属高等学校 教諭 井上 亜衣子

私は専修大学附属高校で国語科の専任教員となり三年目になります。まだまだ経験が浅く未熟な教員ではありますが、私が日々生徒と接する中で大切にしていることを二つお話しさせていただきます。それを通して私の考える教員としての役割や存在意義についてお伝えできればと思います。

まず一つ目は、日々学び続ける姿勢をもつということです。十代という多感な時期にある生徒たちは、様々なことに対して良くも悪くも敏感に反応し、吸収しようとする意欲があります。みなさんの高校時代を思えばすぐにおわかりいただけると思いますが、高校の三年間で生徒は心も体も大きく成長します。そして時にその成長はとても早いものであることを実感させられます。そのような生徒に教員がまず見せるべきものは、「積極的に疑問を持ち真摯に学び続ける姿勢」であると考えます。生徒は思いのほか冷静に教員の言動を見ているものです。教員の立場を笠にきたような行動は簡単に生徒に伝わってしまいます。しかし逆を言えば、教員の懸命さもまた必ず生徒に伝えられるということでもあるのです。生徒と共に学んでいく姿勢を持ち続けることが生徒たちの成長にとって重要なことだと考えています。ひいては、その姿勢が教員としての自分を高めることにもつながるのだと思います。

二つ目は、生徒と対話の時間をもつことです。私は担任として日々四十二人の生徒と向き合っています。しかし一方の生徒からしたら担任は一人です。どれだけ接する生徒が多くても「教員と生徒の関係は一对一」です。このことを明確に意識していないと、生徒への対応を見誤ってしまうことになるでしょう。私は休み時間や放課後などに生徒と過ごす時間を大切にしています。日常生活の中で見せる生徒の飾らないありのままの姿を見たいと思うからです。また、些細なことでも一声かけて生徒とコミュニケーションを持つことが、生徒指導において大きな役割を果たすと感じるからです。教員が自分の思いをふりかざし独り相撲に終わっては、何も意味を成しません。生徒にどのタイミングで何を言うか、その的確な判断を下せることが指導にお

いて重要だと思います。そして、それは個性を持った生徒一人ひとりに対する理解が必要不可欠なのです。そこで大切になってくるのが何気ない日々の対話です。教員と生徒、立場は異なっても人と人との関わり合いであることを忘れてはいけないのだと思います。

私は教員という職業に大変やりがいを感じています。個性ある人間と絶えず向き合うわけですから、未知なる体験の連続です。それゆえに自分の至らなさを痛感して悩むこともたくさんあります。しかし、生徒から受ける力は私の予想以上のものがあります。忙しい時や気持ちに余裕がなくなってしまった時、無邪気に話しかけてくれる生徒と接すると自然と気持ちが上向いてくるのです。生徒は時として自分自身の鏡にもなり、自分を省みる貴重な機会を与えてくれます。そのたびに、「教えるということは同時に学ぶことでもあるのだ」と気づかされます。



十代とはこれから未来に向かっていく輝かしい時期です。それと同時に、安易に楽な方に流されないよう、注意をしなければならない時もあります。この時期に何を教えられ、何を学んだかなどがその人の人生を決める源泉となります。人生を実りあるものにする確かな思考力はこの時につくられるのです。そのことを思うと、日々真正面から真剣に生徒と向き合わなければならないのだと気が引き締まります。生徒と共に歩む姿勢を深く心に留めて、これからもお互いに新しい自己を発見していける関係であり続けたいと思っています。

学生みなさん、どうか「今」という時を大切にしてください。当たり前のことですが、このことをもう一度深く心に刻んでください。そして、身の周りの様々なことに興味関心を持ち、果敢に挑戦してってください。「今」あなたが経験したことのすべてが、必ずや教員という職業で生きていくはずで、みなさんが信念ある教員として教壇に立つ日が来ることを心から願っています。







司書・司書教諭課程

学生時代の意義ある出会いのひとつになれるように

文学部 兼任講師 太田 順子

はじめまして。2011 年度より兼任講師として、二部で司書課程の「専門資料論」と「図書館特論」を担当している太田順子です。

「専門資料論」では、印刷物を読むことに障害がある人々、何らかの理由で従来の図書館サービスを利用できない人々のための図書館資料（障害者サービス資料）について、「図書館特論」では資料も含めた障害者サービス全般についてお話しています。私が学生の頃は、障害者サービスについての講義は公共図書館関係の講義の中で 1 コマあったぐらいでしたので、1 年間かけて障害者サービスについてお話する機会をいただいたことをとても嬉しく思っています。

私は、図書館情報大学（現・筑波大学情報学群知識情報・図書館学類）と同大学院（現・筑波大学図書館情報メディア研究科）で図書館情報学、日本社会事業大学大学院で社会福祉学を学びました。図書館情報学と社会福祉学のダブルマスターです。

司書資格は図書館情報大学卒業と同時に取得しましたが、社会福祉学は大学院から学んだため、日本社会事業大学大学院の修了当時は社会福祉士の受験資格はありませんでした。社会福祉士は、日本社会事業大学通信課程科社会福祉士課程で受験資格を得た後に受験して取得しました。国立身体障害者リハビリテーションセンター（現・国立障害者リハビリテーションセンター）研究所の流動研究員、研究補助職員を経て、現在は、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会（以下、リハ協と略す。）に所属しています。

こういった経歴のため、「公立図書館」と「特別養護老人ホーム」の両方で実習経験があり、福祉系の専門学校で「障害者福祉論」を担当したこともあります。

図書館情報学分野と社会福祉分野の両方から障害について考える経験をしてきましたの

で、講義の中でも、「障害とは？」について様々な角度から考えるきっかけになるようなお話をできればと思っています。

また、日本の「視覚障害者情報提供施設（点字図書館）」は、海外の録音点字図書館と異なり、図書館ではなくて、身体障害者福祉法上の施設に位置づけられているということもあります。障害者サービスには多くのボランティアが関わってきたという経緯もあります。そういった他のサービスとは異なった事情も両分野で学んだ経験を生かしてお話していきます。

リハ協は、障害者のリハビリテーションに関する調査研究と国際的連携のもとに障害者のリハビリテーション事業の振興を目的として 1964 年に設立された公益財団法人です。図書館情報学分野との関連では、DAISY コンソーシアムの正会員である日本 DAISY コンソーシアムの一員として、国内外の DAISY (Digital Accessible Information SYstem) (アクセシブルな情報システム) の開発と普及に関わる活動をしています。また、サピエ図書館には、視覚障害以外の理由で読書に困難のある方が個人会員として登録する際の受け皿となるために施設会員として登録しています。

私は、リハ協では出版事業と情報提供・収集事業に関わっています。具体的には、DINF (障害保健福祉研究情報システム) (<http://www.dinf.ne.jp/>) の編集、DINF メールマガジンの発行、サピエ図書館関連事務、季刊誌「リハビリテーション研究」の編集を担当しています。

DINF は、障害者の保健と福祉に関わる研究を支援するために、国内外から広く関連する情報を収集し、提供しているウェブサイトです。特に、ICT (情報コミュニケーション技術) による障害当事者の社会参加に焦点を

当てています。

当サイトは2008年6月にリニューアルサイトを公開したのですが、2007年4月からリハ協の情報センターに所属した私の最初の仕事がこのサイトのコンテンツの再分類でした。DINFはまだほとんどの団体がウェブサイトを持っていない頃から開設されており、アクセシビリティの観点から古いコンテンツも削除しないで基本的にはURLも変更していません。検索で訪れた方にもトップページから来た方にも見やすいサイトになるように、簡単な説明文を付けて、再編しました。

DINF 担当として、サイト宛に来た問い合わせにも回答しています。ご相談メールをくださった方が求める情報を得られるように、求める支援をできる機関につながるように、DINF の中やウェブ検索でわかる情報をヒントに回答しています。

DINF はウェブ上の専門図書館のような役割を果たしており、また、ウェブ宛のメールへの回答は情報検索やレファレンスや相談援助の要素が入っています。雑誌の編集も本に関わる仕事です。私は、実際には図書館や社会福祉施設には勤めたことがないのですが、こうして改めて書き出してみると、今の仕事には図書館情報学で学んだことも、社会福祉学で学んだことも両方関連しているのだと再確認することができました。

遡ると、障害のある方と意識的に接点を持ったのは、大学学部時代が最初でした。脳性まひの女性の一人暮らしを実現するための会に参加し、介助のローテーションに加わりました。その会の学習会で視覚障害の方に出会い、視覚障害の同世代の学生が運営している会を紹介していただいたのでした。視覚障害の学生に出会ったことがきっかけで、紙媒体の本をそのままでは読めない人の読書支援について興味を持ちました。

先日、調布で日本図書館協会の全国図書館大会が開催されたのですが、そこでまさにこのテーマと出会った頃の学生時代の私を覚えてくださった視覚障害の方と約15年ぶりに再会しました。当時は社会福祉学を学ぶことになることも今の職場にいることも予想していませんでしたが、学生時代に興味を持ったテーマに形は変わってもずっと関わり続けてきたのだと、感慨深く思いました。学生時代から「公共図書館で働く視覚障害職員の会（なごや会）」に参加し、公共図書館や点字図書館で働く視覚障害職員の方々と出会っていたことも今につながっていると思います。

障害者サービスの歴史的流れの一つなのですが、視覚障害者サービスの資料であった録音図書がDAISYに移行していく中で、サービスの対象者も視覚障害者だけではなく、学習障害、知的障害、精神障害、ディスレクシアの方に有効であることが分かってきました。私自身の興味関心や知識も、同様の流れで広がってきたのですが、学生の皆さんには、今のうちから、読書や図書館利用の障害は多様であり、その支援にも様々な可能性があることをお伝えしたいと思っています。

学生時代の出会いは、自分自身が思っている以上に大きなものなのかもしれません。皆さんにとってそんな出会いのひとつになるような情報をお伝えすることができればと思っています。



図書館実習を終えて

さいたま市立中央図書館 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 嶋田 茉里子

私が実習させていただいたのは埼玉県の県庁所在地にして政令指定都市であるさいたま市立中央図書館です。この図書館は市合併後の2007年に新設され、駅前の商業施設の上層階にあります。さらに同施設には市民活動サポートセンターや国際交流センター等も併設されており、図書館内にある支援コーナーはこれらと協力しサービスを提供しています。

貸出や返却は機械化・業務委託されていて実習の範囲外でしたが、それ以外は2週間にわたって各業務の担当者に付いて、様々な実務にあたりました。障害者サービスでは点字を打刻したり、県内図書館との相互貸借資料の処理や、新刊の検収作業、見計らい、市内合同の選書会議、レファレンス研修、電子書籍導入プロジェクト会議の見学など、盛りだくさんの内容でした。中でも2度もおはなし会に参加できたことは、今まで興味の薄かった児童サービスについて再考する良いきっかけとなりました。どうしたら子ども達に本を読んでもらえるか、それには「本を読むのは楽しい」と感じてもらうことが効果的であり、ひいては「自分自身が子ども達と楽しむことが一番」と教わりました。たとえば読み聞かせでは上手く読もうと思うよりも楽しみながら読む方がよいということです。

また中央館であるため職員数は100を超えます。司書もそれぞれの係で分業し、市内の図書館施設を一元管理するために勤務している一般行政職、業務委託先のスタッフ、ボランティアなど多くの人の手によって図書館は成り立っていることを実感しました。特に障害者サービスはボランティア無しには難しいものでした。著作権法が改正され図書館での音訳・点訳が可能になりましたが、実際問題、職員が作業する時間は取れないため、点字図書やDAISYの作成はほとんどボランティアに頼っているのが現状です。

電子書籍導入プロジェクトが進行していたり、館内のシステムがしばしば変わっていったり、除籍される数多くの資料を目の当たりにしたりしているうちに、ランガナタンの図書館五原則のひとつ「図書館は成長する有

機体である」という言葉が思い出されました。社会も図書館を使う人も変わっていく、その流れに対応するために図書館自身も変わっていかなければならないのだと考えるようになりました。

個人的な意見を述べますと、この記事を読んだ後輩にはより多くの人に図書館実習に自主的に参加してほしいと思っています。大学によっては司書資格取得で図書館実習が必須のところもありますが、専修大学は必修ではありません。それなのになぜ私は図書館実習を希望したのでしょうか。お世話になった方には大変申し訳ないのですが、なんとなく、という言葉が冠する理由ばかりで、確固たるものはありませんでした。事前にこのパッソ・ア・パッソの既刊号に載っている体験記を読んだり、実習担当の先生にお話を伺ったりしました。体験記は参考になりましたし、先生には「絶対に楽しいから」と背中を押されました。それでもまだ現実味がなかったのです。しかし幸いなことに実習が始まると、この貴重な機会を生かしてたくさんの経験を得たいという気持ちが奥から奥から湧いてきました。それだけ充実感があったのだと思います。同時に「働くということは、頭も体も気もつかうから、疲れるけれど楽しい。」という発見ができました。そして図書館の実務を経験できたということだけでなく、現職の司書の方とお話しできたことが、司書を目指す上で今後の糧になると思います。

最後になりましたが、担当の方をはじめ、さいたま市立中央図書館の皆様には大変お世話になりました。心から感謝いたします。



在学生から 働く司書の姿を見て

文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻4年 加藤 梢・野中 春菜

ライブラリークラブ愛好会とは

主に司書課程受講生が所属する図書館研究サークルで、メンバーは年によって変動しますが凡そ10人程度のこじんまりしたサークルです。

黒門祭と鳳祭、夏休暇、春休暇に図書館の見学を行います。見学したい図書館を各自で調べてメンバーと相談して行き先を決めます。事前に見学の申し込みを電話でします。

また、夏にはセミナーハウスで二泊三日の合宿を行います。私たちは1, 2, 4年時では箱根、3年時は千葉の御宿に行きました。研究室に集まり、見学した図書館について意見を交換しあいます。その後、各自で調べてきた図書館や本に関することを発表します。文学部だけでなくネットワーク情報学部や商学部の学生も所属しているので一口に本といっても発表は多岐にわたるため非常に面白いです。堅苦しいのはここまでで、その後はメンバーの親睦を深めるべく箱根観光をするのがサークルの通例となっています。

司書課程の授業でテストがある時にはお互いに助け合い、先輩から叱咤激励を受け、時に有難い助言をいただきながらの勉強会をします。



入部した動機（加藤）

大学に入学した際に、高校までのクラスのない学生生活で大学に所属する場所が欲しいと思い、ライブラリークラブに入りました。きっかけは司書課程の最初の授業で先生がサークルを紹介していたことでした。説明に来ていたサークルの人の印象もよく、研究室に見学に行ったときに、入部を決めました。また、本について話せる仲間ができると思い、大変うれしかったです。

入部した動機（野中）

私は二年次から司書課程をとりはじめました。殆どの学生が一年から取り始める中で、授業についていけるのだろうかという不安に一人苛まれていました。思い切って資格課程を申し込んだのはいいものの、知らない事だ

らけの私は授業が始まるまでの日々を悶々と過ごしていました。そんな時、友人の加藤さんからライブラリークラブの存在を教えてもらいました。司書という資格について相談できる友人が欲しかったこと、また少しでも司書資格取得の助けになれば、という思いから私は入部を決めました。

活動

私たちは多くの図書館を見学しました。見学は、座学で学んだことを実際に見て触れることができるとても有意義なものでした。今回は国立国会図書館について紹介します。1, 2年時の黒門祭の時期に私たちは国立国会図書館を見学しました。職員の方に案内していただきながら国立国会図書館が果たすべき役割や仕事について教えていただきました。また、一般の利用では入ることができない地下八階層にわたる巨大な書庫や、厳重に管理された貴重な新聞、雑誌を保管している場所を見学させていただきました。司書が本を守り、大きな使命を持って働いていることを実感しました。また、管理方法やどのように書物を収集するかで悩み、ジレンマを抱えながらも司書の仕事に誇りを持って全うしていることをうかがい知ることもできました。

他にも、町田市立図書館、県立川崎図書館、弥栄高校図書室、味の素文化センター、生命の星地球博物館の見学に行きました。

司書課程を受講して

「司書とは本と人をつなぐ人」。私たちが数々の図書館を見学して実感したことです。年々図書館に割かれる費用が削られていく中で、司書の方々は様々な工夫をしながら来館者のために心を尽くしています。私たちが出会った司書の方々は全員いきいきして仕事に誇りを持っていました。普段何気なく利用している図書館がこんなにも多くの人々の努力と工夫のもとに成り立っているということは司書課程を受講しなければ知ることはなかったと思います。皆さんも司書課程をとおして新しい世界をのぞいてみませんか？

追記

ライブラリークラブにも興味を持っていただければうれしい限りです。





學藝員課程



—専修大学所蔵柄鏡の紹介—

文学部 講師 高島 裕之 文学部人文学科歴史学専攻4年 本木 裕子・山下 淳子
文学部人文学科社会学専攻4年 伊藤 安奈

—1—

本学では、学芸員課程の総仕上げの科目として「博物館実習」がある。教員2人で担当し、「展覧会に関する実務を修得する」、「博物館資料をみる目を養う」という、それぞれ学習到達目標を掲げている。しかし実際に教室で行なえることは必要最小限であり、最良の実習とは何か、日々試行錯誤している。その中で昨年度この科目を履修した有志から、「もう一度習ったことを復習したい。」という希望があった。そこで今回本学が所蔵する江戸時代の柄鏡を用いて拓本を作成し、観察記録をまとめ、この場をお借りし紹介させていただくことにした。

—2—

柄鏡は円形の鏡に柄がつく形の鏡で、日本では室町時代からみられる。一般化したのは江戸時代からであり、婚礼道具として広く用いられた。本学には21点の柄鏡が保管されている。寸法では8寸の例が最も多く12点、次いで7寸4点、6寸2点、5寸3点である。鏡面裏側の文様は、「蓬莱図」を描いた例が多い。また、「高砂」、「和歌」などの大文字を入れた例が6点ある。各々には鏡師銘が入り、「天下一藤原家里」、「人見和泉掾藤原重次」、「人見和泉守重次」、「松村因幡掾藤原重義」、「中原摂津守光重」、「藤原光長」、「藤原光長作」、「藤原光政」、「河上山城守藤原宗次」、「藤原義勝」、「天下一福嶋出雲守藤原吉貞」、「天下一藤原吉重」、「藤原吉重」、「天下一藤原吉次」、「天下一藤原吉長」、「天下一津田和泉守吉長」、「天下一松村因幡守藤原義信」がある。

最も多い「藤原光長」銘（4点）の柄鏡は、江戸時代後期の「踏み返し」によって鏡



を生産する時期に多い作例であるといわれ、その流通範囲も広いことが知られている（前田洋子1993）。21点各々を詳細に分析することは今後の課題であるが、次に「藤原光長」銘を持つ鏡3点について、紹介する。なお個別説明は、拓本を行なった伊藤、本木、山下で分担し、全体を高島がまとめた。

①「葉付半菊文柄鏡」長23.7cm 面径14.7cm

文様は菊花、蔓、葉が描かれており、背景の地文様は細かい砂目地となっている。葉は菊葉ではなく、桐、柏、薦の葉の組み合わせとも考えられる。文様の彫り方は、菊と葉で

異なっている。菊花は深く、葉は浅く彫られていて、花を目立たせる彫り方をしたと考えられる。作者銘が彫られている上部に縦線がみられ、銘の木型を押しすぎた痕跡と考えられ、名前を上乗せしたようである。またこの鏡の類似資料として、法隆寺所蔵資料がある（菅谷文則1988.p.144.NO.1639）。

柄鏡は婚礼品であり、両家の家紋を合わせた例とも推測できる。葉が桐であった場合、桐と菊は皇室の文様としても用いられることから、名誉なもの、縁起の良いものとして作られたとも考えられる。菊の花弁は放射状に開いていることから太陽に見立てられ繁栄、気品があるということで好まれていた（額田巖1996）。柏、薦は、当初、柄鏡の文様と似ていたことから選択肢に入れたが、調べた所、菊と組み合わせた家紋は見受けられない（千鹿野茂1993）。以上のことから葉は桐葉の可能性が高く、縁起物として作られたと考えられる。（本木裕子）

②「蓬莱文柄鏡」長27.6cm 面径18cm

文様は松、竹、梅がみられ、流水と鶴、亀が描かれている。配置は中央に松、梅が同程度の高さにあり、左下に背の低い竹が描かれている。竹の幹を利用して、作者の名が刻まれている。「藤」と「原」の字は離れていることから、別々に刻まれたようであるが、「光」と「長」の字は離れていたり、曲がっていたりしないので、「光長」1組で刻まれた可能性も考えられる。上部には2羽の飛鶴が描かれており、右下には流水と2羽の鶴、亀が向き合う形で描かれている。この亀は「蓑亀」といい、長生きして尾に海藻が付き蓑のようになった表現で、長寿を象徴している。これらは、中国の神仙思想で説かれる想像上の「蓬莱山」を表現している。蓬莱山は仙境東方海上にあって仙人が住み、不老不死の地である。

また鏡の縁には一部欠損かと思ふう傷が見られるが、それは鏡の製作過程でついた可能性が高い。そして梅花や松、砂目地に若干潰れて不鮮明な箇所があることから、「踏み返し」法で製作されていると考えられる。

本学では、同じ「光長」銘の蓬莱文柄鏡で大寸法の例も所蔵しており、その柄鏡に描かれる鶴、亀の表現に相違点を見つけた。鶴は大きい例では羽が2段しっかりと描かれていたが、この鏡では羽が1段と2段目にあたる部分が点で表現されていた。いっぽう亀は大きい例では甲羅の模様が六角形の亀甲形で描かれていたが、この鏡では線のみで表現されていた。これらは大きさの違いによる文様の精粗差であると考えられる。（山下淳子）

③「蓬莱文柄鏡」長31cm 面径21.2cm

主文様として鏡中央に松・竹・梅・菊・橘

図 柄鏡拓本



の樹を乗せた亀が、鏡の縁には波を表す「青海波」が配置されている。また亀の文様の周りの地文は「砂目地」となっている。「亀」は、尾が長いことから「蓑亀」であり、亀甲形で区画された甲羅の上に配置された樹木は、中国の伝説の山「蓬萊山」を表現している。

ここで本学が所蔵する同作者銘の柄鏡と比較する。松では、1つの枝から葉の束が5つ組みで枝分かれとなるが、他の例では6つ組みで枝分かれしている。これは柄鏡の寸法によって異なるとも考えられたが、大小における数の関連性がみられなかった。竹では、笹が1つの枝から葉が7枚伸びているが、大型の例では9枚伸びている。つまり竹では柄鏡の寸法に合わせた描写となっている。

また、青海波や「砂目地」周辺の枠に不自然な傷の痕跡がある。そして作者銘の一部が、松葉文様にかかっている。これは「直汜鑄成法」で作り出された鏡を、何度も踏み返した結果、文様が不鮮明となり、傷の痕跡となったと推測される。さらに松葉部分を細かく観察すると、その施文の重なりは、「全体の文様」、「作者銘」、「銘と重なる松葉部分」の順になると考えられる。以上のような鏡の状態からオリジナルの「詠え」ではなくコピー商品であり、大量生産品と考えられる。

(伊藤安奈)

—3—

柄鏡の研究は、様々な分野での研究の蓄積があり、本稿はその焼増しの1つかもしれない。しかし実際に実物資料に真摯に向き合い、拓本を取りながら、それを精査していくと、鑄造の様子まで観察することができる。そしてこの資料を見る目を養う基本は、実は展示の解説に繋がり、やがて多彩なテーマの企画展へと成長するきっかけを作るのである。

本学には様々な資料が保管されている。今後も意欲のある学生と共に学びながら、このような試みが継続することを期待している。

〈参考文献〉

- 菅谷文則 1988『法隆寺の至宝-昭和資財帳-第9巻 工芸鏡』小学館
- 堤信久 1992『江戸時代の柄鏡とその鑑賞』有限会社トミタ孔版
- 千鹿野茂 1993『日本家紋総監』角川書店
- 前田洋子 1993『柄鏡の変遷(そのⅣ)-近世大阪の鑄造柄鏡・「藤原光長」銘鏡をめぐって-』『大阪市立博物館研究紀要25』大阪市立博物館 pp.1-24
- 額田巖 1996『菊と桐-高貴なる紋章の世界-』東京美術
- 早坂優子 2000『日本・中国の文様辞典』視覚デザイン研究所

博物館実習を終えて

パルテノン多摩 法学部法律学科3年 鈴木 菜海

私は8日間にわたって、博物館機能及びホール機能を併設する、総合複合文化施設パルテノン多摩にて博物館実習を行ってきました。パルテノン多摩の博物館施設は、その趣旨毎に3つに分かれています。まず1つ目がパルテノン多摩のある多摩市及び多摩ニュータウンの歴史を学べる歴史ミュージアム。もう1つが貴重な自動演奏楽器を楽しめるマジックサウンドルーム。そして最後の1つがものづくりを通して身の回りの出来事に対する理解を深めることができる体験施設のキッズファクトリーです。今回の実習では、その3室及び地域の植物などを集めた植物標本庫などで実習をさせていただきました。

実習の中でも特に勉強になったのが、展示解説と展示作成の実習です。展示解説は、資料の内容把握にはじまり、自分の言葉で人にわかりやすく伝えるという作業。しっかりと伝えるためには細部まで自分自身がよく理解していなければならない、また理解したものを自分の中で消化して自分の言葉にしないと、その知識を人に伝え理解してもらうことは難しいということがよくわかりました。また解説体験を通して、学芸員は研究者であると同時に教育者でもあるということを改めて強く感じました。展示作成の実習では、ほかの実習生と協力して期日までに1つのものを完成させるということの難しさと、それぞれが各自の専門分野や特技を生かし協力することによって、1人で作業するよりもよりよい展示が作れるということがわかりました。また展示を作るにあたり、展示を通して誰に何を伝えたいのかを自分の中で確立することはもちろん、グループ全体で共通の認識としてしっかりと事前に共有しておくことの大切さも学びました。展示そのものの方向性が途中でぶれてしまうと、分かりにくい展示や誤解を与えかねないような展示になる恐れがあります。展示パネル1つで物事を端的に伝える大変さや、グループ作業の際に気をつけるべ

き点なども理解できました。その他にも、博物館実習を通して大学の中だけでは学べない、博物館施設における学芸員の役割や仕事の内容について、より理解を深めることができたと思っています。資料を扱うことや展示作業など、実習前に抱いていたイメージ通りの作業の他にも、大人から子供までの来館者対応やボランティアの方々との交流などを通して気づかされたこともたくさんあります。また博物館学などの講義で学んだ知識はもちろん、グループでの作業では、ゼミやサークルなどで培ってきたコミュニケーションやプレゼンテーションの経験が生かされる部分も多く、これまでの大学生活の集大成のような8日間になったと思っています。

私が8日間にわたる博物館実習を通して強く考えさせられたのが、学芸員となって、若しくは、学芸員資格を得て自分が何をしたいのかということです。実習では資料の展示解説を行う教育普及員の方や、植物標本の作成整理を行うボランティアの方などにもお世話になり、博物館を構成しているのは学芸員だけではないことを実感させられました。学芸員という職以外にも学芸員資格を生かす道を知ることができたことや、博物館とは様々な関わり方が出来るのだと改めて気付かされたことは、就職活動や進路選択を目前に控えた私にとって幸せなことだと思います。これからの学習にあたり、実習で学んだことや肌で感じたことを十二分に生かしながら頑張っていきたいです。



博物館実習を終えて

日立市郷土博物館 文学部人文学科歴史学専攻3年 井手上 采加

私は茨城県の日立市にある日立市郷土博物館で館務実習をさせていただきました。私は歴史学専攻に所属しているので、郷土に根付いて歴史や民俗を主題に取り扱っているこの館での実習を希望しました。

今回の実習で最も懸念されたのが、先の大震災及び原発事故による影響でした。幸い実習は予定通り8月22日から26日までの五日間、施設の損壊などで客を入れられない状態ではありましたが何事もなく実施され、平時とは違った状況で通常では決してできない経験をさせていただきました。初日のオリエンテーションの際に、今回の実習は震災の後片付けのようなことがメインになるかもしれないと言



ないと言われていましたが、それ以上の経験が十分出来ました。現在は無事開館できる状態に至り、微力ながらそのお手伝いが出来たのではないかと考えています。

実習の事前確認として交通経路、服装などの確認もしました。実習先によっては実習日誌を直接受け取るか、郵送していただけるかの確認もした方が安心できると思います。

実習内容は、初日に教育普及、二日目に考古、三日目に民俗、四日目に歴史、最終日に美術といった内容で、日替わりで様々な実習を行いました。教育普及、考古、美術では実際に土器や掛け軸の展示をしたり、展示物の解説パネルの作成や土器を安定させるために中に砂袋を入れたりといった作業も行いました。おそらく実習と聞けば真っ先にイメージするような作業で、展示スペースに立ち入っての作業も多く、どのような道具を使って展示しているか、どのような工夫がされているかを問近に見ることが出来て、大変勉強になりました。また、実際に資料に触れる際の心



構えというものを感ずることが出来ました。民俗では聞き取り調査の実習として同じ実習



生から話を聞き、その話を元に発表をしました。事実のみを発表の材料にするようにと言われていたのですが、思ったように話が聞き出せず、フィールドワークにおける事前準備と経験の大切さを感じました。歴史ではカメラや照明を使った歴史資料の撮影保存と、所有している行政文書の整頓作業を行いました。撮影した歴史資料は日立の古地図で、紙があちこち痛んでいたたり紙魚に食われていたりして作業は一筋縄ではいきませんでした。土器などのように両手でしっかり持てば安定するというものでもないの、この作業が一番神経を使いました。行政文書の整頓作業は、日立市郷土博物館が公文書館も兼ねていたこともあり文書の量が多かったため、効率的に作業するために作業内容の統一を図りました。それでもミスがあったりしたので、作業における意思統一の大切さを感じました。

以上の作業ではいずれも館の方が作業開始前にきちんと説明をしてくださり、作業中の疑問点にも丁寧に対応していただいたため、事前知識に不安があっても十分充実した実習になりました。

普段はなかなかお目にかかれないバックヤードをじっくり見ることが出来たり、実物資料を実際に触る事が出来るという館務実習の醍醐味ももちろんですが、先にも述べた通り私の経験した館務実習は平時とは状況が異なりました。見学者のない、非常時の空調の効いていない展示室での作業、工事中、スペースが限定されているといった状況での実習だったので、他の館ではできなかった貴重な経験が出来ましたし、実習以外にも考えさせられることがたくさんありました。

私のような経験をする実習生はあまり多くないと思いますが、たとえどんな実習であっても一生ものの貴重な経験になると思います。



データ編



平成23年度 資格課程履修者数

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
教 職	経 済	経 済 学	44	6	29	5	29	14	29	11	131	36	167
		国 際 経 済	8	—	7	—	13	—	6	—	34	—	34
	法	法 律	34	18	33	9	16	7	20	7	103	41	144
		政 治	25	—	11	—	9	—	12	—	57	—	57
	経 営	経 営	26	—	54	—	24	—	20	—	124	—	124
	商	商 業	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2
		マ ー ケ テ ィ ン グ	31	12	39	4	25	10	28	7	123	33	156
		会 計	4	—	3	—	3	—	9	—	19	—	19
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	44	—	35	—	79	—	79
		日 本 語	21	—	22	—	—	—	—	—	43	—	43
日 本 文 学 文 化		25	—	29	—	—	—	—	—	54	—	54	
英 語 英 米 文		47	—	29	—	26	—	21	—	123	—	123	
人 文		—	—	1	—	54	—	32	—	87	—	87	
哲 学		9	—	10	—	—	—	—	—	19	—	19	
歴 史		58	—	39	—	—	—	—	—	97	—	97	
環 境 地 理		6	—	3	—	—	—	—	—	9	—	9	
人 文 ・ ジャーナリズム		14	—	10	—	—	—	—	—	24	—	24	
		心 理	—	—	—	—	2	—	3	—	5	—	5
ネットワーク情報	ネットワーク情報	31	—	13	—	29	—	30	—	103	—	103	
人 間 科	心 理 学	7	—	7	—	—	—	—	—	14	—	14	
	社 会 学	10	—	20	—	—	—	—	—	30	—	30	
大 学	学 院	12	—	—	—	—	—	—	—	12	—	12	
科 目 等	履 修 生	—	30	—	—	—	—	—	—	—	30	30	
小 計	計	412	66	359	18	274	31	247	25	1,292	140	1,432	
合 計	計	478		377		305		272		1,432		1,432	

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
司 書	経 済	経 済 学	1	1	5	4	10	12	1	8	17	25	42
		国 際 経 済 学	1	—	5	—	1	—	1	—	8	—	8
	法	法 律	8	3	12	7	5	9	6	2	31	21	52
		政 治 学	3	—	7	—	2	—	4	—	16	—	16
	経 営	経 営 学	—	—	1	—	6	—	1	—	8	—	8
		商 業 学	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2	2	5	—	5	5	7	4	19	11	30
		会 計 学	2	—	2	—	—	—	—	—	4	—	4
	文	日 本 語 日 本 文	—	—	1	—	52	—	54	—	107	—	107
		日 本 語	24	—	13	—	—	—	—	—	37	—	37
日 本 文 学 文 化		45	—	40	—	—	—	—	—	85	—	85	
英 語 英 米 文		2	—	10	—	5	—	5	—	22	—	22	
人 文 学		—	—	—	—	34	—	41	—	75	—	75	
哲 学		9	—	17	—	—	—	—	—	26	—	26	
歴 史 学		35	—	46	—	—	—	—	—	81	—	81	
環 境 地 理 学		2	—	5	—	—	—	—	—	7	—	7	
人 間 科	人 文 ・ ジャーナリズム	16	—	7	—	—	—	—	—	23	—	23	
	心 理 学	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1	
学 校	ネットワー ク 情 報	5	—	8	—	7	—	8	—	28	—	28	
大 学	心 理 学	5	—	5	—	—	—	—	—	10	—	10	
	社 会 学	3	—	9	—	—	—	—	—	12	—	12	
科 目 等	学 院 生	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
小 計	履 修 生 計	—	8	—	—	—	—	—	—	—	8	8	
合 計	計	165	14	198	11	127	26	130	14	620	65	685	

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
司 書 教 諭	経 済	経 済 学	1	—	—	—	1	2	—	2	—	3	5
	法	国 際 経 済	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1
		法 律	—	1	1	1	—	—	2	—	3	2	5
		政 治	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1
	経 営	経 営 学	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	
	商	商 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	1	—	—	1	—	—	2	1	3
	文	会 計	1	—	2	—	—	—	—	—	3	—	3
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	3	—	5	—	8	—	8
		日 本 語	3	—	2	—	—	—	—	—	5	—	5
日 本 文 学 文 化		6	—	8	—	—	—	—	—	14	—	14	
英 語 英 米 文		—	—	2	—	1	—	—	—	3	—	3	
人 文		—	—	—	—	2	—	2	—	4	—	4	
哲 学		1	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2	
歴 史		4	—	4	—	—	—	—	—	8	—	8	
環 境 地 理		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人 文 ・ ジャーナリズム	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1		
心 理 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
ネットワーク情報	ネットワーク情報	3	—	2	—	—	—	2	—	7	—	7	
人 間 科	心 理 学	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
	社 会 学	—	—	3	—	—	—	—	—	3	—	3	
大 学	学 院 生	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	
科 目 等	履 修 生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小 計	計	23	1	28	1	8	2	12	2	71	6	77	
合 計	計	24		29		10		14		77			

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計	
	学 科	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部		
学 芸 員	経 済	経 済 学	2	2	4	1	3	1	1	9	5	14	
	法	国 際 経 済 学	1	—	1	—	—	—	1	—	3	—	3
		法 律	2	1	1	—	1	2	1	—	5	3	8
		政 治	—	—	1	—	—	—	1	—	2	—	2
	経 営	経 営 学	—	—	2	—	6	—	—	8	—	8	
	商	商 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1	3	—	1	3	2	6	—	10	6	16
	文	会 計	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	—	6	—	4	—	10	—	10
		日 本 語	3	—	1	—	—	—	—	—	4	—	4
日 本 文 学 文 化		13	—	7	—	—	—	—	—	20	—	20	
英 語 英 米 文		1	—	1	—	3	—	1	—	6	—	6	
人 文		—	—	—	—	26	—	9	—	35	—	35	
哲 学		11	—	8	—	—	—	—	—	19	—	19	
歴 史		33	—	13	—	—	—	—	—	46	—	46	
環 境 地 理		5	—	1	—	—	—	—	—	6	—	6	
人 文 ・ ジャーナリズム		12	—	8	—	—	—	—	—	20	—	20	
ネットワーク情報	心 理	—	—	—	—	—	—	3	—	4	—	4	
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
人 間 科	心 理	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1	
	社 会	1	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2	
大 学	学 院	5	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5	
科 目 等	履 修 生	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	
小 合	計	91	7	51	2	48	5	26	1	216	15	231	

平成23年度 教員免許状取得状況一覧

	免許種別 教 科	中学一種				高校一種							中学専修				高校専修				合計						
		社会	国語	英語	数学	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史		公民	商業	国語	英語	情報	小計
		授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数		申請件数	授与件数	申請件数	授与件数	申請件数	授与件数
生田	一部	経済学	15			15	15	15		1					31												46
		授与件数	12			12	11	12		1					24												36
		申請件数	2			2	3	6						9													11
		国際経済学科	1			1	3	3						6													7
	経営学	4			4	4	4	3	8				15													19	
	授与件数	3			3	3	3	0	6				9													12	
	申請件数				0								0													0	
	商業学																									0	
	授与件数				0									0												0	
	申請件数				0									0												0	
	マーケティング学科	7			7	7	4		13				24													31	
	授与件数	5			5	6	3		12				21													26	
	申請件数				—				3				3													3	
	授与件数				—				3				3													—	
	申請件数				30						37	4		41												71	
	授与件数				26						32	4		36												62	
申請件数				19								21	21												40		
英語英米文学科				18								20	20												38		
授与件数				18									46												64		
申請件数				18									46												53		
授与件数				15									38												6		
申請件数				3									3												6		
授与件数				3									3												6		
申請件数				4								6	10												14		
授与件数				2								4	7												9		
申請件数				—									—												1		
授与件数				—									—												1		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—									—												0		
授与件数				—									—												0		
申請件数				—																							

データ編

Passo a Passo

平成23年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	情報	経営	経営	
	岩手県	盛岡市立下小路中学校	社会	商	マーケティング	
	宮城県	宮城県岩ヶ崎高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	秋田県	聖霊女子短期大学付属高等学校	情報	商	マーケティング	
	秋田県	聖霊女子短期大学付属高等学校	英語	文	英語英米文	
	山形県	米沢市立第二中学校	社会	文	人文	歴史学
	福島県	新地町立尚英中学校	社会	商	マーケティング	
	福島県	福島県立郡山商業高等学校	商業	商	会計	
関東	福島県	いわき秀英高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	茨城県	常総学院高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立波崎柳川高等学校	公民	経営	経営	
	茨城県	八千代町立東中学校	社会	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立日立北高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	茨城県	つくば市立手代木中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	茨城県	東海村立東海南中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	茨城県	稲敷市立江戸崎中学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	つくばみらい市立小絹中学校	社会	文	人文	歴史学
	栃木県	栃木県立鹿沼高等学校	公民	経済	経済	
	栃木県	栃木県立栃木商業高等学校	商業	経営	経営	
	栃木県	佐野市立北中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	栃木県	白鷗大学足利中学校	社会	文	人文	社会学
	群馬県	太田市立商業高等学校	商業	経営	経営	
	群馬県	桐生市立商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	群馬県	前橋市立東中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	群馬県	伊勢崎市立第一中学校	社会	文	人文	哲学生人間学
	群馬県	樹徳高等学校	公民	文	人文	哲学生人間学
関東	埼玉県	埼玉栄高等学校	地理歴史	経済	経済	
	埼玉県	さいたま市立与野東中学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	埼玉県	本庄東高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立入間向陽高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	星野高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	袖ヶ浦市立蔵波中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	千葉県立検見川高等学校	地理歴史	経済	経済	
	千葉県	南房総市立丸山中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	酒々井町立酒々井小学校	全科	商	マーケティング	
	千葉県	酒々井町立酒々井中学校	社会	商	マーケティング	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	千葉県	君津市立周南中学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	千葉県	千葉県立匝瑳高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人間学
	千葉県	我孫子市立白山中学校	社会	文	人文	環境地理学
	千葉県	千葉県立市原八幡高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	千葉県立船橋芝山高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	足立区立千寿青葉中学校	社会	経済	経済	
	東京都	立正中・高等学校	社会	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	八王子高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
関東	東京都	東京都立千早高等学校	商業	商	会計	
	東京都	共立女子中学高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	田園調布学園中等部・高等部	国語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	東京都立調布南高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	東京都立成瀬高等学校	国語	文	日本語日文	日本語学
	東京都	桜美林中学高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	立川女子高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	中央区立日本橋中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立調布南高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立東大和南高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	下北沢成徳高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	江戸川区立小岩第三中学校	社会	文	人文	哲学生人間学
	東京都	拓殖大学第一高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人間学
	東京都	東京都立調布南高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	瑞穂町立瑞穂第二中学校	社会	文	人文	歴史学
	東京都	國學院高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立調布南高等学校	公民	文	人文	社会学
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文	社会学
	東京都	豊島区立池袋第一小学校	全科	文	心理	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	心理	
関東	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

平成23年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	多摩大学目黒中学・高等学校	国 語	文学研究科		日本語日本文学
	東京都	東京都立松が谷高等学校	国 語	文学研究科		日本語日本文学
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	公 民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	公 民	経済	経済	
	神奈川県	秦野市立本町中学校	社 会	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立南中学校	社 会	経済	経済	
	神奈川県	藤沢翔陵高等学校	公 民	経済	経済	
	神奈川県	相模原市立相陽中学校	社 会	経済	国際経済	
	神奈川県	横浜市立中和田中学校	社 会	商	マーケティング	
	神奈川県	中井町立中井中学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	大和市立渋谷中学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	横浜市立金沢高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	愛川町立愛川東中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	秦野市立渋沢中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	大和市立引地台中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立秦野総合高等学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	平塚市立横内中学校	英 語	文	英語英米文	
東海	神奈川県	藤沢市立羽鳥中学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立洋光台第二中学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	桐光学園中学・高等学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	公 民	文	人文	哲学生人間学
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市立高津高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	神奈川県	神奈川県立市ケ尾高等学校	公 民	文	人文	社会学
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	地理歴史	経済学研究科		経済学
甲信越	新潟県	小千谷市立小千谷中学校	社 会	経済	経済	
	新潟県	北越高等学校	地理歴史	経済	経済	
	新潟県	新潟県立八海高等学校	商 業	経営	経営	
	新潟県	新潟県立新潟商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	新潟県	柏崎市立鏡が沖中学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
	新潟県	柏崎市立鏡が沖中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立長岡向陵高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	新潟市立巻東中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	開志学園高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	新潟市立万代高等学校	英 語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立五泉高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟県立新潟西高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
甲信越	山梨県	山梨県立巨摩高等学校	地理歴史	経済	経済	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商 業	経営	経営	
	山梨県	山梨県立塩山高等学校	情 報	商	マーケティング	
	山梨県	山梨英和中学校・高等学校	公 民	文	心理	
北陸	長野県	長野県松本美須ヶ丘高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	長野県	長野県大町高等学校	英 語	文	英語英米文	
	長野県	松商学園高等学校	地理歴史	文	人文	哲学生人間学
	富山県	富山市立西部中学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
東海	富山県	富山県立魚津高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	石川県	金沢大学附属中学校	社 会	経済	経済	
	石川県	星稜高等学校	公 民	経済	経済	
	福井県	福井市立進明中学校	社 会	経営	経営	
近畿	岐阜県	岐阜東高等学校	英 語	文	英語英米文	
	岐阜県	各務原市立蘇原中学校	数 学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	静岡市立清水商業高等学校	商 業	経済	経済	
	静岡県	静岡県立島田商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡市立商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡市立清水商業高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	静岡県	静岡県立相良高等学校	商 業	商	会計	
	静岡県	富士市立吉原第一中学校	国 語	文	日本語日本文	日本語学
	静岡県	加藤学園高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	静岡県	藤枝明誠高等学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	静岡県	静岡市立清水飯田中学校	英 語	文	英語英米文	
	静岡県	浜松市立中郡中学校	英 語	文	英語英米文	
	静岡県	静岡県立富士宮西高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡県立三島北高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	静岡県	静岡市立高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	静岡県	静岡県立下田高等学校	英 語	文学研究科		英語英米文学
九州・沖縄	三重県	志摩市立東海中学校	社 会	文	心理	
	兵庫県	滝川第二高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	鳥取県	米子松蔭高等学校	商 業	経営	経営	
	山口県	平生町立平生中学校	社 会	経営	経営	
九州・沖縄	福岡県	東福岡高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	菊池市立泗水中学校	国 語	文	日本語日本文	日本文学文化
	沖縄県	浦添市立浦添中学校	社 会	文	人文	環境地理学

平成23年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関	栃木県	宇都宮市立陽東中学校	社会	法	政治
	群馬県	伊勢崎市立殖蓮中学校	社会	法	政治
	群馬県	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	公民	法	政治
	埼玉県	星野高等学校	公民	法	法律
	千葉県	流山市立東部中学校	社会	法	法律
	千葉県	山武市立山武南中学校	社会	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	政治
	東京都	小金井市立南中学校	社会	法	政治
	神奈川県	川崎市立菅中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	横浜市立南希望が丘中学校	社会	法	政治
	神奈川県	大磯町立大磯中学校	社会	法	政治
	甲信越	新潟県 新潟市立木戸中学校	社会	法	法律
北陸	長野県	松本市立旭町中学校	社会	法	政治
	富山県	射水市立小杉南中学校	社会	法	法律
	石川県	金沢市立兼六中学校	社会	法	政治
中国	広島県	大竹市立小方中学校	社会	法	政治
九州・沖縄	福岡県	糸島市立前原東中学校	社会	法	政治
	佐賀県	佐賀大学文化教育学部附属中学校	社会	法	法律
	沖縄県	沖縄県立那覇国際高等学校	公民	法	法律

平成23年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習校	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	秋田県	秋田県立本庄高等学校	英語	科目等履修生	
関	茨城県	下妻市立千代川中学校	社会	科目等履修生	
	茨城県	美浦村立美浦中学校	社会	科目等履修生	
	群馬県	高崎市立長野郷中学校	社会	経済	経済
	千葉県	銚子市立第一中学校	社会	経済	経済
	千葉県	千葉市立高浜中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立拝島高等学校	地理歴史	経済	経済
東	東京都	江東区立深川第七中学校	社会	法	法律
	東京都	江戸川区立小岩第三中学校	社会	法	法律
	東京都	駒込中学・高等学校	地理歴史	商	マーケティング

	所在地	実習校	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関	東京都	町田市立町田第三中学校	社会	商	マーケティング
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	科目等履修生	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	科目等履修生	
	神奈川県	三浦市立南下浦中学校	社会	科目等履修生	
甲信越	新潟県	新潟市立鳥屋野中学校	社会	科目等履修生	
東海	岐阜県	揖斐川町立揖斐川中学校	社会	法	法律
	静岡県	静岡市立観山中学校	英語	科目等履修生	
	愛知県	大同大学大同高等学校	地理歴史	経済	経済
	近畿	大阪府 大阪府城星学園高等学校	公民	商	マーケティング
沖縄	沖縄県	西原町立西原中学校	社会	法	法律

平成23年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	埼玉県	さいたま市立中央図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	成田市立図書館	法	法律	
	東京都	三鷹市立図書館	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	横浜市中立中央図書館	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	神奈川県立図書館	科目等履修生		

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	経済	経済	
	神奈川県	専修大学図書館	文	日本語・日本文学	日本語学
	神奈川県	専修大学図書館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	専修大学図書館	文	人文	社会学

平成23年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	青森県	八戸市博物館	文	人文	哲学生・人間学
	岩手県	岩手町立石神の丘美術館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	福島県	福島県立博物館	文	人文	歴史学
関東	茨城県	日立市郷土博物館	文	人文	歴史学
	茨城県	茨城県立歴史館	文	人文	歴史学
	栃木県	足利市立美術館	商	マーケティング	
	群馬県	高崎市少年科学館	文	日本語・日本文学	日本語学
	群馬県	高崎市美術館	文	日本語・日本文学	日本語学
	群馬県	館林市立資料館	文	人文	哲学生・人間学
	群馬県	群馬県立自然史博物館	文	人文	歴史学
	群馬県	太田市立新田荘歴史資料館	文	人文	歴史学
	埼玉県	朝霞市博物館	文	人文	哲学生・人間学
	埼玉県	行田市郷土博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市立浦和博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	戸田市立郷土博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	埼玉県子ども動物自然公園	文	人文	哲学生・人間学
	埼玉県	狭山市立博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	千葉県立中央博物館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	千葉県	茂原市立美術館・郷土資料館	文	英語・英米文	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	人文	歴史学
	東京都	地下鉄博物館	経済	経済	
	東京都	バルテノン多摩	法	法律	
	東京都	家具の博物館	商	マーケティング	
	東京都	立川市歴史民俗資料館	商	マーケティング	
	東京都	科学技術館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	進化生物学研究所	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	英語・英米文	
	東京都	進化生物学研究所	文	英語・英米文	
	東京都	横山大観記念館	文	人文	哲学生・人間学
	東京都	科学技術館	文	人文	歴史学
	東京都	たばこと塩の博物館	文	人文	歴史学
	東京都	東京都江戸東京博物館	文	人文	歴史学
	東京都	古代オリエント博物館	文	人文	歴史学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	進化生物学研究所	文	人文	歴史学
	東京都	進化生物学研究所	文	人文	歴史学
	東京都	東京都多摩動物公園	文	人文	歴史学
	東京都	日本郵政(株)郵政資料館(通信総合博物館)	文	人文	環境地理学
	東京都	進化生物学研究所	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	日本民藝館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	神奈川県立公文書館	文学研究科		歴史学
	神奈川県	川崎市立日本民家園	経済	経済	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	経済	経済	
	神奈川県	シルク博物館	経営	経営	
	神奈川県	電車とバスの博物館	経営	経営	
	神奈川県	はまぎん子ども宇宙科学館	経営	経営	
	神奈川県	横須賀市自然・人文博物館	経営	経営	
	神奈川県	南足柄市郷土資料館	経営	経営	
	神奈川県	横浜市立金沢動物園	商	マーケティング	
	神奈川県	遊行寺宝物館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	神奈川県	三溪園	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市歴史博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	人文	歴史学
	神奈川県	相模原市立博物館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	横浜市三殿台考古館	文	人文	環境地理学
甲信越	新潟県	新潟県立歴史博物館	法	法律	
	新潟県	長岡市立科学博物館	文	英語・英米文	
北陸	富山県	魚津歴史民俗博物館	文	人文	歴史学
	福井県	福井県立若狭歴史民俗資料館	文	人文	哲学生・人間学
東海	岐阜県	岐阜市歴史博物館	文	日本語・日本文学	日本文学文化
	静岡県	焼津歴史民俗資料館	文	日本語・日本文学	日本語学
	静岡県	佐野美術館	文	人文	歴史学
	静岡県	沼津市明治史料館	文	人文	歴史学
	静岡県	浜松市博物館	文	人文	歴史学
四国九州	愛媛県	宇和島市立伊達博物館	文	人文	哲学生・人間学
	長崎県	長崎市科学館	文	人文	環境地理学

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成19年度	平18 経済・経済	大田区立糀谷中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	常総市立中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	常 勤	公 民
	平19 経済・経済	学校法人国士館（国士館中学・高等学校・全日制）	非 常 勤	社 会
	平 3 法・法律	さいたま市立安行小学校	専 任	全 科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）	常 勤	公 民
	平16 法・法律	東京都立足立養護学校	専 任	数 学
	平17 法・法律	葛飾区立東水元小学校	専 任	全 科
	平18 法・法律	笛吹市立春日居中学校	専 任	社 会
	平19 法・法律	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非 常 勤	地理歴史(世界史)
	平19 法・法律	学校法人箕面自由学園（箕面自由学園）	非 常 勤	
	平19 法・法律	栃木県教育委員会（高等学校）	非 常 勤	社 会
	平17 経営・経営	横浜市立奈良小学校	専 任	全 科
	平19 経営・経営	学校法人青森山田学園（青森山田高等学校）	専 任	商 業
	平16 商・商業	鳩ヶ谷市立里中中学校	常 勤	社 会
	平18 商・商業	川崎市立真福寺小学校	専 任	全 科
	平19 商・商業	伊勢原市立中沢中学校	臨時的任用	社 会
	平19 商・商業	静岡県立磐田南高等学校	非 常 勤	商 業
	平11 文・人文	神奈川県立三崎水産高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平16 文・人文	千葉県教育委員会（中学校・高等学校）	専 任	社 会
	平16 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	社 会
	平16 文・人文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平16 文・人文	浜松市立泉小学校	常 勤	全 科
	平17 文・人文	広島県立西条農業高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平19 文・人文	群馬県立前橋女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平16 文・国文	立川市立立川第七中学校	専 任	国 語
	平19 文・日本語日本文	大田原市立大田原小学校	非 常 勤	全 科
	平19 文・日本語日本文	浜松市立入野中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	水戸市立見川中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人東京農業大学（東京農業大学第一高等学校） （東京農業大学第一高等学校中学部）	非 常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	学校法人日田佐藤学園（藤蔭高等学校）	専 任	英 語
	平19 文・英語英米文	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人日通学園（流通経済大学付属柏高等学校）	非 常 勤	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立新宿山吹高等学校 東京都立大泉高等学校 神奈川県立ひばりが丘高等学校	非 常 勤	情 報
	平16 院文・博士	相模原市立相模台小学校	非 常 勤	全 科
	平19 院文・修士	学校法人東京家政学院（東京家政学院中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 院文・修士	東京都立小川高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
平成20年度	平13 経済・経済	茨城県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平13 経済・経済	川崎市教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平20 経済・経済	埼玉県立和光国際高等学校	期 限 付	情 報
	平18 経済・国際経済	相模原市立大沢中学校	非 常 勤	社 会
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	非 常 勤	全 科
	平13 法・法律	足立区教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 法・法律	豊科町立豊科北中学校	非 常 勤	社 会
	平19 法・法律	国分寺市立第七小学校	専 任	全 科
	平19 法・法律	東京都教育委員会（小学校）	期 限 付	全 科
	平20 法・法律	富山県立富山商業高等学校	非 常 勤	公 民
	平17 経営・経営	埼玉県立小鹿野高等学校	専 任	情 報
	平20 経営・経営	学校法人美作学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 商・商業	倉敷市立真備陵南高等学校	常 勤	情報・商業
	平18 商・商業	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	公 民
	平20 商・会計	学校法人鎌形学園（東京学館船橋高等学校）	非 常 勤	商 業
	平10 文・人文	東京都教育委員会（中学校・高等学校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	専修大学附属高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平18 文・人文	学校法人大妻学院（大妻女子大学附属中・高等学校）	専 任	地 理 歴 史
	平20 文・人文	市原市立八幡小学校	非 常 勤	小 学 校

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 20 年 度	平17 文・日本語日本文	守山市立小津小学校	専 任	全 科
	平20 文・日本語日本文	八戸市立下長中学校	常 勤	中 学 校
	平20 文・日本語日本文	広島市立中広中学校	非 常 勤	国 語
	平18 文・英語英米文	東京都教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 文・英語英米文	新発田市立第一中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	山武市立蓮沼中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	東京都立練馬工業高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	豊橋市立東陽中学校	常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立白山高等学校	非 常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	山武市立北小学校	非 常 勤	英 語
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 院経営・修士	学校法人帝京学園（帝京中学・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 院商・修士	学校法人藤嶺学園（藤沢翔陵高等学校）	専 任	情報・商業
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	専 任	英 語
	平20 院文・修士	専修大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平20 院文・修士	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平20 院文・修士	学校法人相模女子大学（相模女子大学中学部・高等部）	専 任	国 語
	平20 院文・修士	南足柄市立南足柄中学校	非 常 勤	特 別 支 援
平成 21 年 度	平21 経済・経済	柏市立豊四季中学校	専 任	社 会
	平21 経済・経済	厚木市立第二小学校	常 勤	全 科
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平21 経済・国際経済	日高市立高根小学校	専 任	全 科
	平13 法・法律	東京都教育委員会（中学校・高等学校）	専 任	社 会
	平21 法・法律	笛吹市立浅川中学校	非 常 勤	社 会
	平21 商・会計	学校法人中央学院大学（中央学院大学中央高等学校）	非 常 勤	商 業
	平18 文・英語英米文	東京都立上水高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	埼玉県教育委員会（中学校）	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	草加市立花栗中学校	期 限 付	英 語
	平21 文・英語英米文	朝霞市立第一中学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	砺波市立庄川中学校	専 任	英 語
	平 9 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平16 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	海老名市立柏ヶ谷中学校	専 任	社 会
	平19 文・人文	仙台市立田子中学校	常 勤	社 会
	平19 文・人文	横浜市立獅子ヶ谷小学校	専 任	全 科
	平20 文・人文	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平21 文・人文	鳥取市立宮ノ下小学校	常 勤	全 科
	平21 文・人文	横浜市立嶮山小学校	専 任	全 科
	平18 文・日本語日本文	東京都立王子特別支援学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	学校法人東京文理学院高等部	常 勤	国 語
	平21 文・日本語日本文	渋谷区立広尾中学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	福島県立塙工業高等学校	月手当講師	国 語
	平21 文・心理	川島町立小見野小学校 川島町立八ッ保小学校 川島町立三保谷小学校 川島町立出丸小学校	非 常 勤	
	平19 院文・修士	相模原市立大野南中学校	専 任	英 語
	平21 院文・修士	座間市立相模中学校	専 任	英 語
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 埼玉県立和光高等学校	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人聖徳学園（聖徳学園中学・高等学校）	非 常 勤	数 学
平成 22 年 度	平15 法・法律	小山市立間々田小学校	専 任	全 科
	平22 法・政治	学校法人中央学院（中央学院大学中央高等学校）	非 常 勤	
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	非 常 勤	数学・情報
	平22 経営・経営	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 商・商業	神奈川県立相原高等学校	常 勤	商 業
	平22 商・マーケティング	横浜市立富士見中学校	非 常 勤	社 会
	平22 商・会計	岐阜県立岐阜商業高等学校	常 勤	商 業
	平14 文・国文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立厚木北高等学校	常勤期限付	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人麹町学園（麹町学園女子中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人明星学苑（明星中学高等学校）	非 常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人翔英学園（米子北高等学校）	非 常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成22年度	平22 文・日本語日本文	神奈川県立高等学校	常勤臨時的任用	国 語
	平22 文・英語英米文	岐阜県立益田清風高等学校	常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	相模原市立二本松小学校	非 常 勤	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人明德学園（相洋中学校・相洋高等学校）	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	横浜市立大曽根小学校	専 任	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人国本学園（国本女子高等学校）	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	山梨県立都留高等学校	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人松韻学院（松栄高等学校）	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平19 文・人文	白井市立南山中学校	専 任	社 会
	平21 文・人文	米子市立住吉小学校	専 任	全 科
	平22 文・人文	秋田県立横手清陵学院高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平21 ネットワーク情報・ネットワーク情報	柏崎市立柏崎小学校	産 休 代 理	全 科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立三郷北高等学校	常勤期限付	数 学
	平22 院経営・修士	学校法人北鎌倉女子学園（北鎌倉女子学園中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平22 院商・修士	東京都立浅草高等学校 東京都立大崎高等学校 東京都立八王子桑志高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 東京都立葛飾ろう学校 東京都立篠崎高等学校 埼玉県立富士見高等学校	非 常 勤	商 業
	平22 院文・修士	学校法人川村学園（川村中学校・川村高等学校）	期 限 付	国 語
	平22 院文・修士	海老名市立大谷中学校	専 任	英 語
平成23年度	平20 経済・経済	埼玉県立坂戸西高等学校	専 任	情 報
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	期 限 付	社 会
	平23 経済・経済	長野県立西中学校	期 限 付 (マイタウンティーチャー)	
	平17 経営・経営	埼玉県立志木高等学校	専 任	情 報
	平17 商・商業	横浜市立戸塚高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平23 商・マーケティング	甲府市立甲府商業高等学校	期 限 付	商業・情報
	平22 文・日本語日本文	東京都立大崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人嘉悦学園（かえつ有明中学校・高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立湘南高等学校	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	上田市立第五中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	千葉県立館山総合高等学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人錦城学園（錦城学園高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	東京都立南平高等学校	常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	千葉県立松戸向陽高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立座間総合高等学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	神奈川県立相模原青陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人東海大学（東海大学付属高輪台高等学校）	非 常 勤	英 語
平成23年度	平23 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	期 限 付	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立横須賀総合高等学校	非 常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	習志野市立第四中学校	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立鴨居中学校	専 任	英 語
	平21 文・人文	横浜市立藤が丘小学校	専 任	全 科
	平23 文・人文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平23 文・人文	君津市立周西小学校	指導補助教員	
	平23 文・人文	河内町立河内中学校	常 勤	社 会
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立北本高等学校	専 任	情 報
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	朝霞市立朝霞第五中学校	専 任	数 学
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立鶴見総合高等学校	専 任	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立杉並総合高等学校	専 任	情 報
	平23 院文・修士	静岡県立伊東商業高等学校	専 任	英 語
	平23 院文・修士	神奈川県立金谷高等学校	臨時的任用	英 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	
千葉県明德短期大学図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
市川市東国分中学校	長岡市立中央図書館（新潟県）
武蔵大学図書館	（株）雄松堂書店
東京大学法学部図書館	青山学院女子短期大学図書館
日外アソシエーツ（株）	国土館大学鶴川図書館
見附市立図書館（新潟県）	実践女子大学図書館
（株）有隣堂	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
女子栄養大学図書館	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	神奈川県立川崎高等学校
東京医科大学図書館	東京都福祉商経専門学校図書館
杉並区中央図書館（東京都）	横須賀市立中央図書館
葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）	三省堂書店
土木学会附属土木図書館	神奈川県立図書館
専修大学図書館	江東区立亀戸図書館
八街市立図書館（千葉県）	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
藤沢市総合市民図書館（神奈川）	法政大学多摩図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	通信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム

平成23年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	中 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	下 旬	履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5月	上 旬	介護等の体験事前講習会 教育実習事前ガイダンス 教育実習 (5月～11月)	3・4 4						
	下 旬	介護等の体験開始 (5月下旬～3月中旬)						博物館実習事前ガイダンス	3・4
6月	上 旬	教育実習登録ガイダンス	3					博物館見学実習	3・4
	下 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状一括申請ガイダンス	3 4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス(3年次 までに司書教諭の単位 をすべて修得した者)	4		
7月	上 旬							博物館実習（館務実習） (7月～9月)	3・4
	下 旬	前 期 試 験（全 学 年） 東日本大震災により、前期試験は実施せず、授業・授業内試験を実施した。							
8月		夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 東日本大震災により、前期追試験は実施せず。							
				図書館実習	4				
		夏 期 休 暇							
9月	下 旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス (4年次で司書教諭の科目を履修した者)	4		
10月	上 旬 中 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス (第1回)	2・3
11月	上 旬							学芸員資格取得証明書交付 申請手続き 博物館実習登録ガイダンス (第2回)	4 2・3
	下 旬	教育学会	1～4						
12月	上 旬			司書課程就職 (進路) 懇談会	1～4			実習希望博物館との内諾交渉	2・3
1月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2月	下 旬	後 期 追 試 験（全 学 年）							
								博物館実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成23年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成23年10月1日(土)
2. 時間 13:30~17:10 (17:30~19:00反省・情報交換会)
3. 場所 生田校舎 10号館 (反省・情報交換会会場: キャビン (9号館5階))
4. 参加者数 107名
5. 内 容

(1) 現職教員(専大OB)からの提言

(教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
長谷川 広明 先生 (平成19年3月 文学部 日本語日本文学科 日本語学専攻卒業)	ひたちなか市立那珂湊中学校	国 語
館 島 あい 先生 (平成22年3月 文学研究科 英語英米文学専攻修了)	海老名市立大谷中学校	英 語
藤 木 慶 先生 (平成19年3月 文学部 人文学科 歴史学専攻卒業)	白井市立南山中学校	社 会
平 田 朱音 先生 (平成20年3月 法学部 法律学科卒業)	富山県立高岡支援学校	公 民 (特別支援)
進 士 勇介 先生 (平成22年3月 商学研究科 商学専攻修了)	東京都立葛飾ろう学校	商 業
山 田 恭弘 先生 (平成23年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科卒業)	神奈川県立鶴見総合高等学校	情 報
宮 内 美穂 先生 (平成21年3月 文学部 人文学科 歴史学専攻卒業)	横浜市立嶮山小学校	小 学 校
吉 田 理実 先生 (平成21年3月 文学部 人文学科 歴史学専攻卒業)	横浜市立藤が丘小学校	

(2) 採用者側からの助言

(教職員の望ましいあり方および現在の教育課題について)

講 師	新 井 由紀男 先生 (昭和48年3月 文学部 人文学科 史学コース卒業)	前神奈川県立海洋科学高等学校長
-----	--	-----------------

(3) タイムテーブル

時 間	内 容	場 所
13:30~13:40 (10分)	挨拶 教職課程協議会委員長 経営学部 教授 内田 欽三	10203 教室
13:50~14:30 (40分)	現職教員からの提言① 国 語 長谷川 広明 先生 社 会 藤木 慶 先生 商 業 進士 勇介 先生 小学校 宮内 美穂 先生	10213 教室 10215 教室 10204 教室 10214 教室
14:40~15:20 (40分)	現職教員からの提言② 英 語 館島 あい 先生 公 民 平田 朱音 先生 情 報 山田 恭弘 先生 小学校 吉田 理実 先生	10213 教室 10215 教室 10204 教室 10214 教室
15:30~16:00 (30分)	現職教員とのディスカッション 国 語 長谷川 広明 先生 英 語 館島 あい 先生 社 会 藤木 慶 先生 ・公 民 平田 朱音 先生 商 業 進士 勇介 先生 ・情 報 山田 恭弘 先生 小学校 宮内 美穂 先生 ・吉田 理実 先生	10205 教室 10213 教室 10215 教室 10204 教室 10214 教室
16:10~17:10 (60分)	採用者側からの助言 新井 由紀男 先生	10203 教室
17:30~19:00	反省・情報交換会	キャビン (9号館5階)

平成23年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1. 開催日：平成23年12月10日（土）
2. 時間：15：00～16：30
3. 場所：神田校舎 ゼミ44教室（1号館4階）
4. ゲスト：窪 菜都美さん（本学卒業生）
5. 勤務先：法政大学多摩図書館（日本アспектコア株式会社）
6. 参加者数：19名
7. 内容：日本アспектコアに所属して、法政大学多摩図書館に勤務する窪氏から、ご自身の大学生活について（アルバイト経験や就職活動など）や、これまでに経験した図書館業務の具体的な内容、図書館で働くことの楽しさなどについてお話を伺った。参加した学生からは、「司書課程での学習の他に、どのような知識や技術が必要とされるか」「職員の方々の年齢構成は」「図書館関連の求人情報はどのように探すのか」といった質問や、「いろいろな働き方があったことがわかった」「司書として働きたいと思っている」などの意見が出され、担当教員の解説等を交えつつ、和やかに懇談が行われた。

平成23年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	講 師	角田真紀子	心身の発達と学習の過程
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	准 教 授	鈴木 秀光	法律学 a・b
法 学 部	准 教 授	森田 司郎	道德教育論
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育論
文 学 部	教 授	青山 高義	自然地理学概論 b
文 学 部	教 授	新井 勝紘	日本史 a・b
文 学 部	教 授	江崎 雄治	地理学 a・b
文 学 部	教 授	大庭 健	倫理学 a・b
文 学 部	教 授	片桐 一彦	英語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育論 I
文 学 部	教 授	田邊 祐司	英語科教育論 II
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文 学 部	教 授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教 授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教 授	福島 義和	人文地理学概論 a
文 学 部	教 授	米田 巖	地誌学 a・b
文 学 部	准 教 授	荻谷 愛彦	自然地理学概論 a
ネットワーク情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	講 師	望月 俊男	情報科教育論
経済学部	兼任講師	大河内彩子	教育法学
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論 I
経済学部	兼任講師	種藤 博	社会科教育論 I
経済学部	兼任講師	増田 純一	公民科教育論
法 学 部	兼任講師	荒井 明夫	社会科教育論 I
法 学 部	兼任講師	飯塚 順子	教育方法論
法 学 部	兼任講師	奥田 喜道	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	日高 慎	日本史 a・b
法 学 部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
法 学 部	兼任講師	森 美保子	教育相談の理論と方法
経営学部	兼任講師	伊東 洋一	情報と職業
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	岩田 公夫	教職入門
商 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
商 学 部	兼任講師	田代 博	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	正野 泰周	倫理学 a・b
商 学 部	兼任講師	三浦 朋子	社会科教育論 II
文 学 部	兼任講師	岡 秀一	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	小野寺利行	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 克則	外国史 a・b

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	滝澤 武	英語科教育研究 1・2
文 学 部	兼任講師	田口 博子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	田中 禎昭	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育論 II
文 学 部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学
文 学 部	兼任講師	村松 弘一	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山下 直	国語科教育論 I
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育論 I
ネットワーク情報学部	兼任講師	重田 勝介	総合演習

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	准 教 授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索演習
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	太田 順子	専門資料論
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	大作 光子	学校図書館メディアの構成
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	レファレンスサービス演習
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	資料特論
文 学 部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス論
文 学 部	兼任講師	松本 直樹	図書館サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	講 師	高島 裕之	博物館実習

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

6月下旬の編集委員会から始動した今年度の編集作業を、無事終えることができました。原稿をお寄せいただいた執筆者の皆様方には深く感謝申し上げます。併せて、執筆者に依頼をして下さった諸先生方、そして、編集作業の過程で多大なご尽力を頂いた教務課の方々にも、心より感謝申し上げます。

資格課程の受講生の皆さんには、是非とも手に取って読んでいただきたいと思います。私自身は編集委員長という立場で、何回か原稿全体に目を通す機会を得ましたが、そのたびごとに、諸先生方の教育に対する考え方に共感し、教師という職業の魅力を再認識し、採用試験突破に向けた頑張りや仲間意識に感動し、教育実習、図書館実習、博物館実習での経験に頼もしさを感じました。この一冊には、先輩方や先生方の在学生に寄せる温かい期待が込められています。必ずや今後の学生生活の励みとなることでしょう。

この年報によって、教職・司書・司書教諭・学芸員課程の全体の状況を一覧することができます。今年度で14号となりましたが、年報の刊行を毎年継続することで、将来的には資格課程の変遷を迎える際の貴重な資料となることでしょう。特に後半のデータ編には、こうした観点からの意義があります。忙しい日々、つつい目先の業務に終始しがちになりますが、単年度の実績を整理し記録物として刊行することの意義を改めて肝に銘じ、今後ともぜひ続けていかなければならないと考えます。

一方で、着実に前進し続ける状況を記録に留められるよう、資格課程関係者一同、来年度も一層の精進を重ねてまいりたいと思います。今後とも、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集委員長

荻原 幸子

編集委員

広瀬 裕子

嶺井 正也

中野 育男

鐘ヶ江晴彦

野口 武悟

高島 裕之

平成23年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成24年4月1日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学